

令和5年度  
(2023年度)

事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)



学校法人巨樹の会

# 目 次

---

---

## I 学校法人の概要

1. 基本理念、建学の精神、教育理念、沿革	.....	P	1
2. 基本方針	.....	P	3
3. 教育方針	.....	P	4
4. 教育計画	.....	P	5
5. 設置する学校・学科等	.....	P	7
6. 学生数の状況	.....	P	8
7. 役員及び評議員の概要	.....	P	9
8. 国家試験合格状況	.....	P	10

## II 事業の概要

1. 令和5年度事業の概要	.....	P	11
2. 各学校の事業報告			
令和健康科学大学	.....	P	14
福岡看護専門学校	.....	P	33
小倉リハビリテーション学院	.....	P	38
下関看護リハビリテーション学校	.....	P	40
八千代リハビリテーション学院	.....	P	51
福岡和白リハビリテーション学院	.....	P	52
福岡水巻看護助産学校	.....	P	54
武雄看護リハビリテーション学校	.....	P	60

## I.学校法人の概要

### 基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

- 創設者の蒲池眞澄は、「患者のために医療を行う」という強い思いで、昼夜を問わず救急医療に励んできました。その中で医師のパートナーである看護師の教育を行いたいという熱い思いから看護学校を設立しました。また、患者様の生命を救った後の、日常生活動作の回復を考え、リハビリテーションを重視し、理学療法士、作業療法士の育成のためリハビリテーション学院を開校しました。さらに昨今の多様化する医療に応えうる人材を育成すべく、令和4年4月に看護学部、リハビリテーション学部を備えた「令和健康科学大学」を開学し、助産師教育を含む姉妹校専修学校5校とともに、新たな歴史を刻んでおります。

### 建学の精神

創設者の信念である「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を基本理念とし、医療のスペシャリストになりたいという学生の夢の実現のために「人間愛・自己実現」を教育理念として掲げ、人間性豊かで、社会に貢献できる実践能力を身につけた医療の専門職業教育を目指しています。

### 教育理念

#### 人間愛・自己実現

学校法人巨樹の会の教育理念は「人間愛・自己実現」という人間の根本精神をあげ、一人ひとりの学生が人間愛の精神に基づき、対象を深く理解し、受け入れ、専門的な知識、技術、態度を身につけることができるような人材育成を目指しています。さらに、医療看護分野の専門性の追求のみならず、一生を通じて人格向上の努力を続け、自己実現していけるような人を育てています。

## 教育にかける情熱

学校法人巨樹の会は、創設者である蒲池眞澄の「医師のパートナーである看護師の教育を行いたい」という熱い思いから始まりました。さらに、本法人は急速な少子高齢者社会の進展や疾病構造の変化により、在宅分野や予防分野など、リハビリテーションの需要がさらに増大してくる事を鑑み、その中核を担うセラピストの育成にも力を入れています。

知識は、学習の習慣と方法を修得できれば身につけることができます。しかし、医療従事者になりたいという思いは、他者から指導されて身につくものではありません。本当に医療従事者になりたいという思いをもった受験生にきてほしい、これが本法人の創設者の願いです。

本法人では、「人間愛・自己実現」という教育理念のもとで、基礎教育と臨床研修との一貫教育を中核に掲げ、患者様のために実践できる能力を身につけ、社会に貢献できる有能な人材の教育を行っています。

現在、本法人の専門学校5校の卒業生は16,000人(令和6年3月閉校:福岡看護専門学校・福岡和白リハビリテーション学院 卒業生含む)を超え、看護師・助産師・理学療法士・作業療法士として、全国の医療の第一線で活躍しています。

### 〔 沿革 〕

平成 2年 4月	学校法人 福岡保健学院 福岡看護専門学校(3年課程)開校
平成 4年 4月	福岡看護専門学校2年課程(夜間定時制)開設
平成16年 4月	小倉リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 下関リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 八千代リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校 福岡看護専門学校2年課程(通信制)開設
平成19年 4月	福岡和白リハビリテーション学院(理学療法学科・作業療法学科)開校
平成20年 4月	福岡看護専門学校水巻校(3年課程)開校
平成22年 4月	下関リハビリテーション学院に看護学科を開設 名称変更:下関看護リハビリテーション学校へ
平成22年 9月	みずまき助産院ひだまりの家を開院
平成23年 4月	武雄看護リハビリテーション学校(看護学科・理学療法学科)開校 福岡看護専門学校水巻校に助産学科を開設 名称変更:福岡水巻看護助産学校へ
令和 2年 4月	学校法人名を「学校法人巨樹の会」へ変更
令和 4年 4月	令和健康科学大学 開学 看護学部 ・看護学科 リハビリテーション学部 ・理学療法学科 ・作業療法学科
令和 6年 3月	福岡看護専門学校 閉校 福岡和白リハビリテーション学院 閉校

## 2. 基本方針

### 令和5年度 学校法人巨樹の会 基本方針

#### I. 学校法人の更なるガバナンス機能の強化

1. 業務の適正を確保するための内部統制システムの実施
2. 中長期計画を策定し事業計画と連動したPDCAサイクルの展開
3. 令和健康科学大学大学院看護学研究科(仮称)設置申請に向けた取り組み

#### II. 継続事業

1. 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進
2. 学生満足度向上に向けた取り組み
3. ICT環境の運用
4. 退学者抑制の取り組み（進級率・卒業率90%以上の実現）
5. 国家試験合格率100%実現に向けた取り組み
6. 定員充足への取り組み
7. 地域連携の充実にむけた社会貢献の推進
8. 業務効率化の促進

#### III. その他

1. 働きやすい職場環境づくりの取り組み
  - 1) メンタルヘルスケア体制を充実させ、教職員に対する心のケアの充実及び健康管理を推進
  - 2) ハラスメントを防止し快適な職場づくりを実現
  - 3) 年次有給休暇の取得促進のための取り組みを実施する
2. 関連グループのスケールメリットを生かした学校運営の展開
  - 1) 各校が持つ様々な情報を共有し、ノウハウを生かした活動を展開
  - 2) 経費削減と効率化の実現

### 3. 教育方針

## 令和5年度 学校法人巨樹の会 教育方針

#### 1. 科学的な根拠に基づく実践力を身につけた医療従事者の養成を行う

- 1) 基礎教育と臨床研修との一貫教育の徹底
  - (1) 実践能力の強化に向けてた教育体制作り
  - (2) 一人ひとりを大切にた教育体制(90%以上の進級・卒業率を目指す)
  - (3) 専門職連携を踏まえた教育の強化
- 2) 国家試験資格取得にむけての確実な指導体制(100%合格を目指す)
- 3) 関連施設への就職(昨年度以上の就職率を目指す)

#### 2. 次世代教育に向けて、実践力のある教員の教師力、事務の実務能力を育成する

- 1) 教育の効率、主体的学習意欲を高めるICT機器活用ができる能力の育成
- 2) 専任教員の教育実践における質向上への取組み  
専任教員養成講習会(NS)・養成施設教員等講習会(PT・OT)への参加促進
- 3) 大学におけるFD・SDの充実とその活用を促進する
- 4) 学内・学外における研修制度の活用
- 5) キャリア向上のための修士・博士課程の大学院進学への推進

#### 3. 令和健康科学大学開学後のスムーズな教育への導入と教育実践・評価を行う。

- 1) 各学部の教育活動について、三つの方針に則り、教育の質の保証と向上を図る。  
学位授与の方針(DP) 教育課程編成・実施の方針(CP) 入学者受入れの方針(AP)
- 2) 教育の質向上を継続的に図るため、内部質保証システムの運用と教育の見直しを行う。

#### 4. 大学及び専門学校将来構想に向けて、大学院設置準備と法人としての方針を出す。

- 1) 大学院開設のために、準備室を配置し申請準備に取り組む
- 2) 専門学校、大学の入試状況の変化を捉えて、10年後の方針を考える

#### 5. 福岡看護専門学校、福岡和白リハビリテーション学院2校の閉校準備と閉校記念式典を行う。

- 1) 閉校する専門学校の在校生の教育、閉校準備を教職員全員で支援する
- 2) 歴史ある専門学校の閉校にむけて、記念式典を計画し、その伝統を引き継ぐセレモニーとする。

## 4. 教育計画

### I. 教育の強化

1. 自ら状況判断できる看護師、助産師、理学療法士、作業療法士を育成するために、「主体的に学ぶ」という姿勢を育む教育を実践する。

- 1)知識注入型の教育ではなく、思考する教育方法を取り入れた講義、演習、実習に取り組んでいく。
- 2)様々な学生指導において、指示待ちではなく自分で考えさせる指導方法を実践する。
- 3)学生のやりたいという思い(モチベーション)を大切にした教育を工夫する。
- 4)自分にも出来るというような達成感を感じられる教育方法、学生を認める関わりを実践する。

2. ICT教育を全面的に取り入れた授業運営を通して、カリキュラム評価を行い、カリキュラムを運営する。

- 1)ICT教育の徹底を図り、教育効果を高める教育方法の向上を目指し運営する。
- 2)カリキュラムの運営を通して、講義・演習・実習における評価を検討し、教育内容・方法・技術の強化を行い運営する。

### II. 学生支援について

1. 学生支援体制を整える。

- 1)学生の主体性を尊重した教育的な関わりをもち、学生の支援体制をつくる。
- 2)教員自ら積極的に挨拶を行い、学生との関わりを機会をふやし自ら学生のモデルとなる。
- 3)学校カウンセラー・健康担当医と連携して、学生の学業継続を支援する。
- 4)教科外活動、課外活動などを通して、学生間の交流を図る。
- 5)早めの就職指導を行い、卒業生の就職率を高める。
- 6)卒後3年間の臨床経験を通して実践力を身につけることができる卒後教育が充実した病院への就職を斡旋する。

### III. 国家試験対策の強化

1. 国家試験全員合格に向けての対策の強化を図る。

- 1)昨年度の国家試験対策の評価を行いながら、国家試験対策の強化を図り、全員合格を目指す。
- 2)各学年の学生の傾向を分析しながら、教育方法を工夫し、学生の基礎学力の向上を図る。

## IV. 入学生確保について

### 1. 入学生の確保を強化する。

- 1) 広報委員会を中心とした計画的運営により、広報活動を積極的に行う。  
ホームページ、ブログ、リスティング等、WEB上の広報活動の充実を図る。  
パンフレット、配布資料、広告、募集活動の工夫を行う。
- 2) 各科の特徴を生かした募集活動を、WEBを含めて戦略的に行う。  
看護学科: 指定校推薦校の見直し、募集活動の早期化、範囲拡大(地域、大学など)  
進路指導教員へのアプローチ、入試の定着、募集活動の範囲・学校訪問  
数の拡大、複数回の訪問  
助産学科: 卒業生、在校生勤務地を活用した募集活動  
全国区への募集、関連施設(関東含めて)へのアプローチ  
PT・OT: 奨学金制度の充実、進路指導院へのアプローチ、複数回の学校訪問、  
充実したオープンキャンパスの開催  
OTの職業認知を徹底的に高める活動を実戦

## V. 管理体制の強化

### 1. 専門学校においては「職業実践専門課程」の継続的な認定を目指す。

- 1) 企業等との連携を図り、「教育課程編成委員会」を参考にカリキュラムの改善を行う。
- 2) 「学校関係者評価」を実施し、教育における教育内容・教育方法を充実する。
  - (1) 授業・演習・実習指導等についての授業評価を計画・実施して、自己の指導の指針とする。
  - (2) 学校関係者評価の結果について外部公表を行い、各校改善を行う。

### 2. 教職員の目標管理を活用し、教職員の必要となる能力の向上に努める。

- 1) 教職員の適正人数の配置を行う。  
(教職員の人員配置、実習指導教員の強化、図書司書の配置)
- (1) 目標管理を行うことで、教職員自身の役割を明確にし、主体的な判断や行動ができるようにする。
- (2) 教職員をサポートする研修体制の充実を図る。
  - ① 関連学校における中央研修への積極的な参加
  - ② 各専門領域での専門性を向上するための研修の支援体制の整備

### 3. 円滑な学校運営を行う。

- 1) ワークライフバランスを考慮した業務内容の見直し、業務改善を行う。
  - (1) 学科ごとに業務内容のマニュアル化を進めていく。
  - (2) 会議運営について、組織的・効果的な実施を図る。
  - (3) 業務改善を行い、残業時間を短縮する。
- 2) 情報機器の活用により、業務の効率化、情報の共有化を図るとともに、情報セキュリティ対策を強化する。

## 5. 設置する学校・学科等

### 大学

令和5年5月1日現在

学校名	開校年月	学 部	学 科	修業年限	入学定員	総定員数
令和健康科学大学	令和4年4月	看護学部	看護学科	4年	80名	160名
		リハビリテーション学部	理学療法学科	4年	80名	160名
			作業療法学科	4年	60名	120名

### 専修学校

学校名	開校年月	学 科		修業年限	入学定員	総定員数
福岡看護専門学校	平成2年4月	看護学科 ※令和4年度以降学生募集中止	3年課程 全日制	3年	—	50名
小倉リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
下関看護リハビリテーション学校	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	80名	240名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名
八千代リハビリテーション学院	平成16年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	120名	280名
		理学療法学科	夜間コース	4年	40名	160名
		作業療法学科	昼間コース	3年	80名	160名
福岡和白リハビリテーション学院	平成19年4月	理学療法学科 ※令和4年度以降学生募集中止	昼間コース	3年	—	80名
		理学療法学科 ※令和3年度以降学生募集中止	夜間コース	4年	—	40名
		作業療法学科 ※令和4年度以降学生募集中止	昼間コース	3年	—	40名
福岡水巻看護助産学校	平成20年4月	看護学科	3年課程 全日制	3年	80名	240名
		助産学科	1年課程 全日制	1年	16名	16名
武雄看護リハビリテーション学校	平成23年4月	理学療法学科	昼間コース	3年	40名	120名
		看護学科	3年課程 全日制	3年	40名	120名

### 助産院

施設名	開設年月	部屋数	備 考
みずまき助産院 ひだまりの家	平成22年9月	6床	・H22.9～H23.3まで出張助産にて運営

## 6. 学生数の状況

(令和5年5月1日現在)

## 令和健康科学大学

(単位:人)

学 部・学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学部 看護学科	80	273	82	3.41	160	180
リハビリテーション学部 理学療法学科	80	217	83	2.71	160	156
リハビリテーション学部 作業療法学科	60	66	57	1.10	120	86
計	220	556	222	2.53	440	422

## 福岡看護専門学校

(単位:人)

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 第1科 (3年課程 全日制)	-	-	-	-	50	44
計	-	-	-	-	50	44

## 小倉リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	80	77	73	0.96	240	242
理学療法学科(夜間)	40	13	13	0.33	120	85
作業療法学科(昼間)	40	39	34	0.98	160	112
計	160	129	120	0.81	520	439

## 下関看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科	80	55	52	0.69	240	161
看護学科 (3年課程 全日制)	40	34	28	0.85	120	113
計	120	89	80	0.74	360	274

## 八千代リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	120	143	119	1.19	280	302
理学療法学科(夜間)	40	14	17	0.35	160	128
作業療法学科(昼間)	80	55	53	0.69	160	131
計	240	212	189	0.88	600	561

## 福岡和白リハビリテーション学院

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
理学療法学科(昼間)	-	-	-	-	80	87
理学療法学科(夜間)	-	-	-	-	40	13
作業療法学科(昼間)	-	-	-	-	40	44
計	-	-	-	-	160	144

## 福岡水巻看護助産学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	80	76	55	0.95	240	204
助産学科	16	93	16	5.81	16	16
計	96	169	71	1.76	256	220

## 武雄看護リハビリテーション学校

学 科 名	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
看護学科 (3年課程 全日制)	40	67	41	1.68	120	122
理学療法学科	40	39	35	0.98	120	121
計	80	106	76	1.33	240	243

法人全体数	入学定員	志願者数	入学者数	志願倍率	収容定員	学生数
	916	1,261	758	1.38	2,626	2,347

## 7. 役員及び評議員の概要

(令和6年3月31日現在)

### ①役員・評議員の数

	選任条項別定数実数					
	選任基準			定数	実数	
理事 (定数7～11)	7-1-1	学校長及び学院長	理事会選任	1～2	2	10
	7-1-2	評議員	評議員会選任	4～5	4	
	7-1-3	学識経験者	理事会選任	2～4	4	
監事	-	-	理事長選任	2	2	2
評議員 (定数16～23)	26-1-1	法人職員	理事会選任	4～6	4	21
	26-1-2	卒業生	評議員会選任	3～5	5	
	26-1-3	学識経験者	理事会選任	9～12	12	

### ②役員名簿

役職	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	選任基準
理事長	蒲池 眞澄	H1.8.1	常勤	7-1-3
理事	寺坂 禮治	R3.10.23	常勤	7-1-1
理事	片山 薫	R4.6.1	非常勤	7-1-1
理事	鶴崎 直邦	H8.8.1	非常勤	7-1-2
理事	山本 智子	R4.4.4	常勤	7-1-2
理事	中野 盛夫	H23.3.28	非常勤	7-1-2
理事	西村 泰治	R2.10.1	常勤	7-1-2
理事	藤井 茂	H31.3.2	非常勤	7-1-3
理事	稲川 利光	R3.10.23	常勤	7-1-3
理事	樋渡 啓祐	R4.6.1	非常勤	7-1-3
監事	生野 憲生	R4.4.1	非常勤	-
監事	本岡 大祐	H30.6.1	非常勤	-

## 8. 国家試験合格状況

<第113回 看護師 全国平均合格率 87.8% 第107回助産師 全国平均合格率 98.8%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	課程別 全国合格率(%)
福岡看護専門学校	看護学科第1科 (3年課程 全日制)	42	41	97.6%	93.0%
福岡水巻看護助産学校	看護学科 (3年課程 全日制)	73	70	95.9%	93.0%
	助産学科	16	16	100%	99.3%
下関看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	39	34	87.2%	93.0%
武雄看護リハビリテーション学校	看護学科 (3年課程 全日制)	39	35	89.7%	93.0%

<第59回 理学療法士・作業療法士 全国平均合格率 PT 89.2% OT 84.4%>

学校名	学科名	受験者数	合格者数	合格率(%)	新卒 全国合格率(%)
小倉リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	101	94	93.07%	95.3%
	作業療法学科(昼間)	39	37	94.87%	91.6%
下関看護リハビリテーション学校	理学療法学科	59	54	91.53%	95.3%
八千代リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	126	118	93.65%	95.3%
	作業療法学科(昼間)	38	36	94.74%	91.6%
福岡和白リハビリテーション学院	理学療法学科 (昼間・夜間)	97	97	100.0%	95.3%
	作業療法学科(昼間)	44	42	95.45%	91.6%
武雄看護リハビリテーション学校	理学療法学科	42	42	100.0%	95.3%

## II. 事業の概要

### 1. 令和5年度事業の概要

学校法人巨樹の会の令和5年度における事業の総括概要は、以下の通りである。

#### 1) 福岡看護専門学校及び福岡和白リハビリテーション学院の閉校

福岡看護専門学校は、平成2年4月開学から34年間、福岡和白リハビリテーション学院は、平成19年4月開学から17年間、令和健康科学大学への移管という発展的閉校として、それぞれの歴史に幕を閉じた。

##### (1) 閉校式の実施

令和6年3月1日、両校の卒業式後に、校旗を返還する閉校式を執り行った。



##### (2) 閉校後の処置

施設・設備・土地は全て令和健康科学大学へ移管した。

#### 2) 令和健康科学大学 大学院設置申請書の提出

令和健康科学大学では、より一層の教育・研究の発展、地域保健医療へのさらなる貢献のあり方を検討した結果、専門職連携教育を特色とした教育課程を編成して教育研究を行っている看護学及びリハビリテーション学の学部教育を基盤とした、「健康科学研究科医療系健康科学専攻（仮称）」を設置することとし、令和6年3月14日に文部科学省に設置申請書を提出した。

「健康科学研究科医療系健康科学専攻（仮称）」の設置は、令和7年4月を目指している。

#### 3) 学校法人寄附行為変更認可申請書の提出

令和健康科学大学大学院「健康科学研究科医療系健康科学専攻（仮称）」の設置に伴い、令和6年3月13日に学校法人寄附行為変更認可申請書を文部科学省に提出した。令和5年度は、令和健康科学大学の開設から大学法人へ移行して2年目となり、業務を適正に執行するためのガバナンス及びコンプライアンスを念頭に置きながら、法人運営を実行している。今後も、法人内の様々な問題を円滑に対応できる仕組みや体制等の整備を進めていく。

#### 4) その他の事業

##### (1) 運営体制の強化

定期で行われる理事会の他、常任理事会を開催し、法人の運営及び経営が滞りなく執行できるような体制をとっている。

＜実施状況＞	理事会	3回
	評議員会	3回
	常任理事会	5回

##### (2) 教職員の資質向上の取り組み

＜大学院進学推奨制度申請実績＞

専門学校7校の教員及び全校の事務職員に対する「人材の育成」、「職員の資質向上」、「教育基盤の充実」を目的として、大学院（大学院設置基準第14条適用大学院、および学校法人理事長がこれらに準ずる大学院であると認定するもの）への進学推奨制度を策定し、「大学院進学（修士・博士）推奨規程」を制定している。

(申請実績)

年 度	博士課程	修士課程
平成 29 年度以前	1 件	12 件
平成 30 年度	4 件	10 件
平成 31 年度	1 件	1 件
令和 2 年度	0 件	2 件
令和 3 年度	1 件	1 件
令和 4 年度	1 件	2 件
令和 5 年度	0 件	1 件

尚、申請の増加促進するため、一部規程を見直し、令和6年4月1日より改訂を実施する。

＜学会発表及び論文掲載発表実績＞

専門学校7校の教員及び事務職員における研究成果について、各種学会等へ発表することを奨励し、発表を行った職員及び論文が専門紙に掲載された職員に対しては「学会発表・論文発表褒賞に関する細則」に則って褒賞金の支給を行っている。

(発表実績) ※平成 31 年度以前は未集計

年 度	学会発表	論文発表
令和 2 年度	7 件	10 件
令和 3 年度	1 件	5 件
令和 4 年度	3 件	2 件
令和 5 年度	2 件	3 件

＜合同学術研究発表会参加＞

カマチグループで実施している年2回の合同学術研究発表会に、学校法人の各校も参画し、若手職員の育成に努めている。

＜ヘルスリテラシー研修＞

関連グループである巨樹の会 健康保険組合主催のヘルスリテラシー研修が開催され、学校法人の教職員も延べ34名が参加した。オンラインで開催された計2回の研修会では、禁煙対策と、女性特有の健康課題について必要な知識を学ぶことが出来た。（講師：SOMPOヘルスサポート株式会社）

#### <事務職員研修>

学校法人の事務スタッフのスキルアップを図ることを目的として、3つの研修会を行った。

(講師：conditioning studio VIVALUCK! 代表 恒松伴典先生)

- ①ミスを起こさない脳の仕組みを知る！  
～ヒューマンエラーの予防と対策
- ②職場の雰囲気が明るくなり生産性向上につながる！  
～脳活性化メソッド『シナプソロジー』とは？
- ③話下手でも上手くいく！  
～スタッフのやる気が出る脳科学的面談法

3つの研修をいずれも令和健康科学大学の講義室で実施し、8校から延べ89名の事務職員が集い情報交換及び親睦を深める研修となった。

#### (4) 国家試験合格率100%及び退学者抑制の取り組み

国家試験合格率100%実現に向けた取り組みの一つとして、専門学校7校において、看護師、助産師、理学療法士、作業療法士の国家試験の合格率に応じて教職員へ報奨金を支給している。また、退学者抑制の取り組み（進級率・卒業率90%以上の実現）として受け持ったクラスの学生の進級率に応じた担任進級手当支給制度を導入している。

このようなインセンティブ制度を設けることにより、目標が明確となり、教職員の達成感やモチベーションのアップ、業務意欲の向上、チームワークの強化も目指している。

## 2. 各学校の事業報告

法人の事業方針に基づいて、各校が策定した事業報告への主な取り組みは以下のとおりである。

### 令和健康科学大学

#### -日本の医療を変える大学を作る-

令和5年度は、令和健康科学大学が開学し2年を迎え、開学1年目以上に更なる伝統の構築を念頭に置きつつ、大学設置計画書に基づき運営した1年間であった。

第2期の入学生は、令和5年4月1日時点で看護学部 看護学科82名、リハビリテーション学部 理学療法学科83名ならびに作業療法学科57名の合計222名であった。

また教職員は令和5年4月1日時点で教授5名、特任教授1名、准教授1名、講師3名、特任講師1名、助教7名、助手7名、事務職員4名を採用した。

西村泰治前学長が令和5年4月1日付で本学大学院設置に注力されることに伴い、新学長として学校法人巨樹の会 寺坂禮治 副理事長が就任した。

開学2年目であることから、1年目以上に様々な課題に対応するためのルールを構築した。また、新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月8日に「5類感染症」に移行されたことに伴い、通常の対面授業中心に行った。

このような状況においても、設置計画書に記載した計画については、概ね実施することができたと自己評価する。また、令和5年度の状況を踏まえつつ、教務、学生支援、研究、入試広報、情報管理や会計等の分野で各々の業務の見直しが行われ、入学者の状況も改善している。

教員の就任辞退、退職等に起因する教員の補充など、専任教員の補充についても、カリキュラムに影響を及ぼさないように適切に対応している。

今後も、新設大学としての目的を構成員が共有し、新たな伝統を構築するとともに、設置計画を着実に履行する。

また、高度職業人養成のための令和7年度開学予定の大学院（健康科学研究科）の設置に向けて準備を行い、令和6年3月には文部科学省に対して設置認可の申請を行った。

令和5年度の実施状況に関する詳細は、以下のとおりである。

## 1. 教育

### 計画

多様化・高度化する医療において、幅広い教養と思考力を基盤とし、倫理観及び探究心を統合した実践力を備え、多様性のある対象者に対して持続可能な健康長寿社会の実現に寄与する医療専門職を養成するための教育課程を編成し実施する。

### 実施状況

事業計画に基づき、教育課程の編成及び実施を推進するとともに、学生の成長を支援する方策を実施した。2年次には、退学者を除き看護学科86名、理学療法学科84名、作業療法学科56名、計226名

が進級した。

また3年次には、退学者を除き看護学科86名、理学療法学科68名、作業療法学科26名、計180名が進級した。令和6年4月1日時点の学生数は下記のとおりである。

学部・学科	1年生	2年生	3年生	計
看護学部 看護学科	89	86	86	261
リハビリテーション学部 理学療法学科	88	84	68	240
リハビリテーション学部 作業療法学科	39	56	26	121
<b>計</b>	<b>216</b>	<b>226</b>	<b>180</b>	<b>622</b>

## 1) カリキュラムの実施

カリキュラムの運営にあたっては、開学2年目と言うこともあり、教務委員会において、様々な課題に対応するためのルールを構築した。

検討を行った主な事項は以下のとおりである。

- ①出欠管理
- ②出席変更願の提出
- ③公認欠席の取扱い及び変更処理
- ④定期試験における受験資格の確認
- ⑤再試験対象学生の公表方法
- ⑥定期試験の答案の返却
- ⑦成績評価
- ⑧学生の剽窃行為の防止対策
- ⑨履修要件と進級要件
- ⑩教務委員会の下部組織の設置
  - i) 基幹・専門基礎科目部会
  - ii) 学力向上プログラム部会
  - iii) カリキュラム編成部会
  - iv) 実習部会

なお、各部会の任期は当該年度限りとし、部会の継続については令和6年度教務委員会で審議する。

## 2) 教員の補充

教育内容の充実及びカリキュラムの実施に影響が生じないよう、後任教員を検討し「専任教員採用等設置計画変更書類（AC 教員審査）」を文部科学省へ提出した。なお、一部の分野については、引き続き補充の検討を行っているところである。

また、大学院設置準備のために、特任教授を採用して、大学院設置準備室長として申請業務にあたらせた。

(令和6年3月31日現在)

所属	就任辞退等教員	補充教員氏名	就任時期等
看護学科	N教授（看護管理）	倉岡教授	令和6年4月1日
	増員	後小路助教	令和6年4月1日
	K教授（成人）	選考中	
	H准教授（在宅）	馬場教授	令和5年4月1日

理学療法学科	M教授	補充予定	
	T助教	選考中	令和7年4月1日
作業療法学科	増員	助教	令和6年夏
	K教授	選考中	令和7年4月1日

教員全体の数は、以下のとおりである。

(令和6年3月31日現在)

	令和6年4月採用者①				令和5年度末在職者②				計(①+②)				合計
	大学	看護	理学	作業	大学	看護	理学	作業	大学	看護	理学	作業	
学長 副学長等	1				2				3	0	0	0	3
教授		1		2	1	8	8	5	1	9	8	7	25
准教授						4	2	1	0	4	2	1	7
講師						8	4	2	0	8	4	2	14
助教		1	1			3	7	4	0	4	8	4	16
特任					4				4	0	0	0	4
助手		5				6			0	11	0	0	11
<b>計</b>	<b>1</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>7</b>	<b>29</b>	<b>21</b>	<b>12</b>	<b>8</b>	<b>36</b>	<b>22</b>	<b>14</b>	<b>80</b>

令和5年9月30日付で宮里邦子教授が学部長職を退任し、10月1日付で辻慶子学科長が学部長代理として就任した。

また、令和5年9月1日付けで看護学科 白石裕子教授が同学科副学科長、令和6年1月1日付で作業療法学科 中山広宣教授が同学科副学科長として就任した。

その他、令和6年4月1日付けで原寿郎氏を副学長として採用することとなった。主な職務はカリキュラム関係、認証評価(自己点検等含む)、図書館長である。

### 3) 学生支援

学生の大学での生活においては、正課教育と共に正課外の生活が重要である。

本学では、学生委員会と学務課学生係が中心となって、正課外を含む学生支援活動を展開した。

学生支援活動の詳細は、以下のとおりである。

#### i) 学生指導

入学式当日に「保護者オリエンテーション」を初めて開催し、その翌日には、入学生に対する「新入生オリエンテーション」(2日間)を実施し、学生生活全般に関する説明を実施した。また、オリエンテーションと同日に、福岡県警東警察署の協力のもと、防犯に関する意識付け及び知識等の向上につなげて学生身の安全確保を図るために、新入生全員を対象とした「防犯講座」を開催した。

また、新入生オリエンテーションと並行して、在学生を対象とした「在学生オリエンテーション」も初めて開催し、改めて学校生活上の注意点等の説明を行った。

各学科では、クラス担任制あるいはアドバイザー制度として指導教員を配置し、学生指導を行った。クラス担任制あるいはアドバイザー制度の導入により、学生の修学上の事項を中心にして相談を行ったことは、修学及び学生の生活支援において有益であった。

ii) 経済的支援

新入生を対象とした、日本学生支援機構の説明会を開催した。

日本学生支援機構の奨学金受給者の対象は以下のとおりである。(令和6年3月31日現在)

令和5年度日本学生支援機構奨学金受給状況

奨学生人数 (単位：人)

入学年度 学科	令和4年度	令和5年度	合計
看護学科	69	46	115
理学療法学科	45	52	97
作業療法学科	18	41	59
合計	132	139	271

奨学金種類別内訳 (単位：人)

学科・入学年度	奨学金種類	給付	第一種 貸与	第二種 貸与
看護学科	令和4年度	11	32	52
	令和5年度	17	27	24
	小計	28	59	76
理学療法学科	令和4年度	11	21	35
	令和5年度	14	28	25
	小計	25	49	60
作業療法学科	令和4年度	8	8	11
	令和5年度	9	20	23
	小計	17	28	34
合計		70	136	170

給付奨学金支援区分内訳 (単位：人)

学科・入学年度	支援区分	令和5年4月1日～令和5年9月30日					令和5年10月1日～令和6年3月31日				
		第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	停止	小計	第Ⅰ区分	第Ⅱ区分	第Ⅲ区分	停止	小計
看護学科	令和4年度	3	2	6	1	12	3	5	2	1	11
	令和5年度	8	5	4	0	17	10	2	3	2	17
	小計	11	7	10	1	29	13	7	5	3	28
理学療法学科	令和4年度	5	4	2	0	11	4	6	1	0	11
	令和5年度	7	2	4	0	13	8	3	1	2	14
	小計	12	6	6	0	24	12	9	2	2	25
作業療法学科	令和4年度	7	0	2	1	10	4	2	1	1	8
	令和5年度	3	4	2	0	9	3	3	2	1	9
	小計	10	4	4	1	19	7	5	3	2	17
合計		33	17	20	2	72	32	21	10	7	70

奨学金給付・貸与受給状況内訳 (単位：人)

学科・入学年度 受給種類	看護学科			理学療法学科			作業療法学科			全学科		
	R4年度	R5年度	小計	R4年度	R5年度	小計	R4年度	R5年度	小計	R4年度	R5年度	合計
給付のみ	1	3	4	3	4	7	3	3	6	7	10	17
第一種貸与のみ	14	13	27	4	17	21	2	11	13	20	41	61
第二種貸与のみ	33	15	48	20	18	38	5	18	23	58	51	109
併用貸与	11	1	12	10	3	13	3	3	6	24	7	31
給付+第一種貸与	2	6	8	3	6	9	2	4	6	7	16	23
給付+第二種貸与	3	1	4	1	2	3	2	0	2	6	3	9
給付+併用貸与	5	7	12	4	2	6	1	2	3	10	11	21
合計	69	46	115	45	52	97	18	41	59	132	139	271

iii) 大学や病院でのアルバイト斡旋

昨年度に引き続き、病院では福岡和白病院での「ケアワーカー」アルバイト(時給 900 円～)や、福岡和白病院内厨房での「食器洗浄」のアルバイトを斡旋した。

図書館においては、時間外の窓口業務のため、放課後の時間を利用したアルバイトとして5名の学生を採用した。

iv) 課外活動支援

令和5年度は、文科系・運動系合わせて20件のサークル活動が登録された。学内にテニス・フットサルコートも設立しコロナウイルス感染症の制限も緩和され、空いている時間帯は使用可能とし、昨年度以上に活発に活動を行っている。

【サークル一覧表】

(令和6年3月31日現在)

No.	分類	サークル名	No.	分類	サークル名
1	体育系	バドミントンサークル	1	文科系	ボランティアサークル
2	体育系	バレーボールサークル	2	文科系	歴史を楽しく学びあう会
3	体育系	令和ドリーム	3	文科系	MELPサークル
4	体育系	学生トレーナー	4	文科系	英会話サークル
5	体育系	RHSバスケサークル	5	文科系	学生広報チーム
6	体育系	ダンスサークル	6	文科系	絵本サークル
7	体育系	弓道サークル	7	文科系	企業工場見学
8	体育系	ハンドボールサークル	8	文科系	器楽サークル
9	体育系	ウィッフルボールサークル	9	文科系	デジタルソリューションサークル
10	体育系	KPOPサークル	10	文科系	令健大写真部

v) 学生寮、学生アパート

本学は学生寮、学生用アパート「サンビュー和白」(令和6年3月契約終了)および「トピア唐原II」を管理しており、学生の入居を斡旋している。

大学としては、福岡和白リハビリテーション学院、福岡看護専門学校の学生も併せて入居(閉校に伴い令和6年3月まで入居)していることから、寮生会の運営、入居者の入居ルールの遵守等に配慮してきたところである。また、学生寮入居者への朝食と夕食の提供については、「あきの会」の協力を得て学生食堂において実施している。

また、学生寮入居学生のコロナウイルス感染者の発生については、専門学校教員とも協働して対応することで感染者の拡大を防ぐことができた。

なお、3施設とも老朽化している箇所については、改修を行った。

## 【入居者数一覧表】

(令和5年5月1日現在)

## (1) 学生寮

令和健康科学大学		男		女		小計	
看護学科	1年	0	1	6	8	6	9
	2年	1		2		3	
理学療法学科	1年	4	5	1	1	5	6
	2年	1		0		1	
作業療法学科	1年	2	3	1	2	3	5
	2年	1		1		2	
合計		9名		11名		20名	

## (2) 学生アパート トピア唐原Ⅱ

令和健康科学大学		男		女		小計	
看護学科	1年	0	0	0	0	0	0
	2年	0		0		0	
理学療法学科	1年	0	1	0	0	0	1
	2年	1		0		1	
作業療法学科	1年	0	0	0	0	0	0
	2年	0		0		0	
合計		1名		0名		1名	

## (3) 学生アパート サンビュー和白

令和健康科学大学		男		女		小計	
看護学科	1年	0	0	1	2	1	2
	2年	0		1		1	
理学療法学科	1年	0	0	0	1	0	1
	2年	0		1		1	
作業療法学科	1年	0	0	0	0	0	0
	2年	0		0		0	
合計		0名		3名		3名	

#### vi) 保健管理

令和5年4月、学生の身体面と精神面の健康を支援するため、健康支援センターを設置した。

感染症対策として、感染者の把握、学内の感染対策、学内での情報共有など多用な業務に対応した。

また、一般定期健康診断を実施するとともに、感染対策委員会のもとで、健康管理ファイルの作成やワクチンオリエンテーションを開催し、学生の予防接種履歴の把握・接種の勧奨に努めた。

心の健康については、令和5年4月より常勤カウンセラー1名、非常勤カウンセラー3名体制で学生のサポートに努めた。

なお、令和6年4月の障害者差別解消法の改正施行により、合理的配慮が義務化されることを受けて、規定を整備するとともに、対応のための体制を整備し、学生サポート室を設置し、令和6年1月から運営を開始した。

#### iv) その他

##### イベント関係

##### ・新入生歓迎会

5月26日(金)に、本法人理事長ならびに学友会設立準備委員会が主催で学生食堂、中庭を使用し、「新入生歓迎会」を開催した。

##### ・大学祭

11月4日(土)に、第2回「令愛祭」を開催した。当日の参加者数は学生、保護者、地域住民合わせて約700名の多数の来場者であった。また教職員は約90名が参加した。企業様からの協賛金、教員からの寄付金として817,500円のご厚意を賜った。

## 4) キャリア支援

### キャリア支援係の取り組み

- ・令和5年7月1日付でキャリア支援委員会を設置並びにキャリア支援係を設置した。
- ・キャリア支援委員会

令和5年7月28日(金)に第1回キャリア支援委員会を実施。全8回のキャリア支援委員会を実施した。主な内容は、学生のキャリア支援及び就職支援に関することの検討を行った。

令和5年度の承認案件は下記のとおりである。

### ・キャリア就職支援の理念と4つの支援

理念：「学生自らが主体的に将来を選択し、実現へと導くことのできる支援」

4つの支援：就職支援システムの導入、キャリア支援室の設置、キャリア就職支援講座ミライパス、キャリア面談の実施

- ・就職支援システムの導入の承認(株式会社ダイヤ書房、システム名：スタログ、契約関連、初期登録施設、アカウント運用、業種カスタム)
- ・キャリア就職支援講座ミライパスの導入の承認(運用、講座内容、講座担当、名称、契約)
- ・ランドデザイン(都度更新)の承認
- ・キャリア支援室の設置(運用、レイアウト)
- ・和白リハ求人QRコードの設置
- ・令和5年度キャリア支援補正予算の承認

- ・令和6年度キャリア支援予算の承認
- ・令和6年度学生便覧記載内容の承認
- ・キャリア支援リーフレットの作成(業者：haro、レイアウト、テキスト)
- ・保護者説明会の実施概要の承認
- ・リハ学部生対象病院研究会実施概要の承認
- ・看護学部生対象病院研究会実施概要の承認
- ・求人受取り、求人公開の条件について(必須書類：求人票、自己申告書、青少年雇用情報シート)
- ・様式関連、運用(就活報告書、内定連絡書、履歴書)
- ・新入学生、在学学生、保護者オリエンテーション説明内容の承認

#### ○キャリア就職支援内容

##### 理念「学生自らが主体的に将来を選択し、実現へと導くことのできる支援」

本学の教育理念は、「人間愛と自己実現」である。そのため、医療職を目指す本学学生には、人間愛の醸成と自己実現を果たすために、自己を見つめることから始めてもらう。そして、学生自身が「キャリア（生き方）」を主体的に考えることができるように支援し、社会を意識した早期の動機づけを行う。

すなわち、キャリア支援では、卒業後の自己実現、社会貢献のみならず、在学中の学内外における充実した実習や大学生活を送ることができるための支援を行っていく。

#### ○4つの支援

##### ・就職支援システムの活用

求人情報、就活情報、学内講座情報の提供を行い、学生一人一人の活動履歴を蓄積し、学生の動向分析、内定通知の把握、進路決定の把握など、キャリア形成、就職活動に関わる全ての情報を発信、集約、管理を行う。

##### ・キャリア支援室の設置

学生一人一人が、自分自身を探求できる環境、実習、就活、就職後に活かせるノウハウを獲得できる環境を整備しております。キャリア面談、面接実践、キャリア就職支援講座ミライパス、就活資料の確認などができる。

##### ・キャリア・就職支援講座ミライパスの展開

学生自身の目標や自身のスキルに合わせて、22の特別講座(就職対策系、キャリア形成系、スキル up 系、卒業後のキャリア系)から自分に合った組み合わせで、スケジュールリングを行い、就職対策・キャリア形成・能力開発を行う。※1講座一覧あり

##### ・キャリア面談の充実

キャリア面談では、過去の経験やその時の感情を含めて振り返ることから始める。そして、現在の学生の就職の悩みや将来の不安などに丁寧に寄り添い、一緒に考えていく。

#### ※1 キャリア就職支援講座ミライパス講座一覧表

講座名	種別	概要
就活スタート講座	就職対策	就職活動の進め方、病院選びのポイント、就活イベントと説明会のポイント
面接対策講座	就職対策	面接の基本、面接官の視点、面接種別ごとの基礎
GD 対策講座	就職対策	基礎知識の修得と実践【課題解決型実践】【自由討論型実践】など

ビジネスマナー	就職対策	臨地臨床実習、就職活動におけるマナーと電話・メールにおける基本と実践
求人票の見方	就職対策	求人票で押さえるポイントの解説。雇用形態、勤務場所と転勤、給与、賞与、みなし残業、勤務時間、休日、保険、などの解説。
履歴書〈基礎〉	就職対策	履歴書作成のポイントと自己分析と病院研究の重要性
履歴書〈応用〉	就職対策	文章作成、専門対策、小論文対策
企業研究講座	就職対策	病院企業研究の方法、研究シートを記入し、興味を持ったポイントからなぜ興味を持ったのかというシートを使ったワーク実践。
メイクアップ講座	就職対策	メイク実習(リクルートメイクに挑戦)
自己分析講座	キャリア形成	自分の考えを整理する、サークルオブライフの活用、自分の価値観から見えてくる病院選択、自己PRや志望動機を作成するために、自分の経験から文章化し他者へアウトプット。
ゲーム講座	キャリア形成	すごろくゲームを活用し、自己理解を深めることが出来るゲーム実践。
キャリアビジョン講座	キャリア形成	キャリア理論から、考え方を学ぶ。3年後、5年後、10年後を考え、自分のなりたい姿、ありたい姿を考えるワーク実践。
SPI 対策講座	スキルUP	非言語対策。損益算、料金割引、料金計算、代金精算、平均、年齢算、順列、組み合わせ、推論、集合
面接試験実践	スキルUP	模擬面接の実践とフィードバック
コミュニケーション能力講座	スキルUP	人事担当者を引き付ける伝え方、人事担当者が求めることを察する重要性
プレゼンテーション講座	スキルUP	論理的に組み立てる、効果的なプレゼン資料の作成方法、実践とフィードバック
Word 講座	スキルUP	【基礎編】文章作成、文章の編集、画像・図形の入力 【応用編】長文作成ビジネス文書作成
Excel 講座	スキルUP	【基礎編】データ入力、表作成、装飾、よく使う数式 【応用編】グラフ作成、データベース利用、ピボットテーブル
PowerPoint 講座	スキルUP	【基礎編】プレゼンテーション資料作成の基礎 【応用編】特殊機能の設定、スライドのカスタマイズ
卒業後専門的キャリア	特キャリア	認定看護師、認定理学療法士、専門理学療法士、認定専門作業療法士の説明、勉強内容、取得後のキャリア
特資格者キャリア	特キャリア	教員による資格の説明と取得後のキャリア
大学院のキャリア	特キャリア	大学院の役割と大学院のキャリア

## 2. 研究

### 計画

健康科学の学問的発展を目指し、幅広い観点から実践的研究を推進する。

### 実施状況

本学が、将来にわたり高度な教育研究を維持し、健康科学全般の実践的研究を推進するため、科学研究費補助金の獲得等を支援するとともに、研究環境の整備を行った。

#### 1) 科学研究費補助金(科研費)の採択状況

本学が標榜する健康科学に関する個々の教員の研究課題を推進する観点より、科研費の獲得を目指した。科研費への効果的な申請を支援するために、外部資金獲得支援のための動画講座を導入した。

令和5年度の採択状況は、以下のとおりである。

学部	新規	左記内訳	継続	左記内訳	科研費獲得額
看護学部	代表 6件 分担 2件	基盤C 7件 研究スタート1件	代表 10件 分担 13件	基盤B 2件 基盤C 20件 若手 1件	直接経費 39,846,016円

リハビリテーション学部	代表 3件 分担 3件	基盤C 3件 若手 2件 挑戦 1件	代表 8件 分担 5件	基盤B 1件 基盤C 6件 若手 5件 研究スタート1件	間接経費 6,984,278円
-------------	----------------	--------------------------	----------------	---------------------------------------	--------------------

## 2) 大学支援研究費による研究支援

初年度に大学が独自に教員の研究を支援するための研究補助金として、「大学支援研究費」として実施を行い、2年目になる。令和5年度は総額600万円の研究費について、科研費を申請したが不採択となった研究者や、本学への異動のために科研費の申請が出来なかった教員らを対象として公募がなされた。その結果、研究計画書の審査を経て8名に、40～100万円の研究費が支援され有効に活用された。現在、研究成果の報告書の提出を実施しているところである。なお、前年度採択された課題のうち、2件が令和5年度の科研費採択、1件が研究助成に採択された。

## 3) 研究倫理、研究不正への対応

研究不正に関する規程等については4月に制定しホームページにおいて公開した。

研究倫理を理解するため全教員を対象にしたWebによる研修「APRIN eラーニングプログラム」を4月に実施、研究費の執行に関する注意点の周知のため配信記事等の作成・提供をした。また、研究事務を担当する事務職員についても、研究費不正の防止に関する研修会を実施した。

また、研究倫理については、2月14日に西南女学院大学 笹月桃子教授による臨床研究の中での研究倫理に関する講演を開催し、研究倫理に関する考え方を学んだ。

令和5年度は、研究倫理審査41件、利益相反64件を審査した。

## 3. 地域連携・社会貢献計画

地域の現状に沿った活動を展開し、開かれた大学として地域の人々へ学びの場を提供するとともに、地域住民の健康増進と健康な生活づくりを推進する。

### 実施状況

本学を取り巻く自治体、地域及び他の教育機関等との連携を図った。

#### 1) 福岡未来創造プラットフォームへの参加（年2回の代表者会議、年4回の運営委員会）

福岡市を中心とする高等教育の振興と地域社会の活性化を目的として、福岡都市圏に位置する大学・自治体・産業界で構成された「福岡未来創造プラットフォーム」に加入し、学生募集作業部会における広報活動に参画した。また令和6年度において、本学は監事を担当する。

#### 2) 和白公民館との協定

和白校区自治協議会と連携を深め、従来から要望が強かった災害時の臨時避難所設置について協定を締結し、非常時に和白地区から要請があれば体育館を開放するという協定を令和5年4月1日に締結した。

また、地域の住民の方々からの要望により、適宜に大学見学会を実施し、本学への理解を深めていただいた。

### 3) 福岡工業大学との協定

大学共通テスト利用選抜の実施にあたり、福岡工業大学と共同実施する形態をとる旨の協定を、福岡工業大学と締結し、2年目にあたる。

### 4) インクルーシブ・フェスタ

NPO 法人列島会、社会福祉法人あきの会等が主催するインクルーシブ・フェスタ実行委員会の活動を後援し、「インクルーシブ・フェスタ(第1回 6月11日、第2回11月12日)」の会場として体育館を提供するとともに、教職員と学生がボランティアとして参加した。

## 4. 組織運営

### 計画

学長が、学部長等との緊密な連携により、自らのリーダーシップを発揮し、教育研究面の管理運営を執り行う体制を構築するとともに、理事会との緊密な連携のもと将来構想等の検討を行なう。

### 実施状況

#### 1) 大学運営会議

本学の運営に関する重要事項を審議するとともに、法人との連携を深めるために、計 25 回の大学運営会議を学長の主導により開催した。議題一覧は下記の通りである。

回数	開催日	事項	議題
1	4月6日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議のメンバーについて</li> <li>・大学入学者選抜規則の改正及び入学試験委員会規程の廃止について</li> <li>・令和5年度交通広告について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度委員会名簿について</li> <li>・令和5年度入試状況について</li> <li>・令和6年度入試日程について</li> <li>・令和5年度九州カマチグループ新研修医 本学見学予定について</li> <li>・第3回インクルーシブフェスタについて</li> </ul>
2	4月16日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会組織について</li> <li>・大学運営会議 規則(案)について</li> <li>・外部研究資金に係る一般管理費に関する規程について</li> <li>・学生の常識的な聴講態度の指導について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3法人学術集会について</li> <li>・6/24(土)カマチグループ九州・関東合同院長会議について</li> </ul>
3	5月18日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5類感染症移行後の本学における新型コロナウイルス感染症対策について</li> <li>・教員選考(看護管理学 教授)について</li> <li>・令和4年度事業報告について</li> <li>・学生の常識的な聴講態度の指導について(継続案件)</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特待生の選考について</li> </ul>
4	6月1日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学委員会 各委員長への辞令配布について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5/24(金)理事会について(理事会決定事項)</li> <li>・令和5年第1回専任教員採用等設置計画変更書(AC教員審査)の判定結果について</li> <li>・6/24(土)開催 九州・関東合同院長会議 出席者について</li> </ul>
5	6月15日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報動画制作について</li> <li>・学生のキャリア支援の充実について</li> <li>・大学広報活動の計画について</li> <li>・本学公的研究費内部監査に関する規程の改正について</li> <li>・国際交流について</li> </ul>

		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業料等減免費交付金に係る対象事業の実施状況等調査について</li> <li>・令和6年度一般選抜（前期）試験問題作成に係る委託契約書等の締結について</li> <li>・6/13実施 大学院設置の事務相談について</li> <li>・入試ガイドの案内について</li> </ul>
6	7月6日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和健康科学大学大学院に係る校納金について</li> <li>・子ども祭りについて</li> <li>・歩行データベース測定会について</li> <li>・大学将来構想について各学科のヒアリング・継続案件</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月10日（日）開催 第45回合同学術研究発表会の概要・演題依頼について</li> <li>・令和5年度大学支援研究費助成決定額について</li> <li>・本学施設使用規程改訂について</li> <li>・令和健康科学大学大学院の現状について</li> <li>・恩域医療財団グループ交流研修について</li> </ul>
7	7月20日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学部 看護学科 教員公募（在宅看護学領域）について</li> <li>・教員人事委員会の進め方について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試選抜における併願制の導入について</li> <li>・2023年度 学園祭について</li> <li>・各学科 学生の講義等の出席状況について</li> <li>・全体朝礼について</li> </ul>
8	8月3日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェック制度の導入について</li> <li>・福岡県精神保健福祉協会入会について</li> <li>・令和6年度入学者選抜用の入試作業室の確保及びネットワークの整備について</li> <li>・学友会設置準備委員会の専用部屋について</li> <li>・規程の改訂について</li> <li>①公的研究費の取扱いに関する規程</li> <li>②公的研究費内部監査に関する規程</li> <li>③教員等選考規程</li> <li>・看護学部 看護学科 教員公募（専門職育成学 助教）について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭の進捗報告について</li> <li>・令和5年度公的研究費の内部監査の実施について</li> <li>・看護学部看護学科 副学科長人事について</li> <li>・2号館9階会議室 後期授業からの使用について</li> <li>・2023年度“IPW推進への誓いのつどい”の開催日時について</li> </ul>
9	8月17日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が離職する際の物品等の取扱いについて</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学祭の事務業務分担・進捗報告について</li> <li>・ハラスメント委員会主催「ハラスメント」に関する研修について</li> <li>・臨地・臨床実習に係る学生の費用負担について</li> <li>・大学院設置 進捗報告について</li> <li>・本年度前期再試験状況について</li> </ul>
10	9月7日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床シミュレーションセンター利用規定改訂について</li> <li>・入試判定結果に伴う大学運営会議の開催日程追加について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生の結核検査について</li> <li>・学園祭の事務業務分担・進捗報告について</li> <li>・令和5年度 公的研究費の内部監査実施報告について</li> <li>・2025（令和7）年度入学者選抜日程について</li> <li>・令和5年度 前期成績について</li> <li>・学籍異動について</li> </ul>
11	9月21日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規程の改訂について</li> <li>・特待生が休学する際の在籍管理料の取扱いについて</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭の事務業務分担・進捗報告について</li> <li>・学生横断指導等について</li> <li>・看護学部 教員人事について</li> <li>・令和7年度入学者選抜用（一般選抜（前期））入試問題作成業者の選定について</li> </ul>

12	10月5日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化推進委員会報告</li> <li>・学園祭報告</li> <li>・インフルエンザ接種について</li> <li>・学籍異動について</li> <li>・各学科 国試状況について</li> </ul>
13	10月19日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援システムの導入について</li> <li>・教員人事について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令愛祭について</li> <li>・補正予算について</li> </ul>
14	10月27日	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度 総合型選抜試験合格者の選考結果について</li> <li>・令和6年度 社会人選抜試験合格者の選考結果について</li> </ul>
15	11月2日	審議	・教授会審議事項ならびに本学における課題の審議の流れについて
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化推進委員会報告</li> <li>・令和5年度 前期成績について</li> <li>・総合型選抜/社会人選抜入試 受験者分析等報告</li> <li>・令愛祭について</li> <li>・学生保険の変更について</li> <li>・11/20(月)~22(水)恩城 医療財団グループ訪問について</li> </ul>
16	11月16日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副学長人事について</li> <li>・看護学部 成人看護学領域教授増員について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア支援委員会 進捗報告</li> <li>・本学 作業療法学入学者のカマチグループ職員への紹介料支払について</li> </ul>
17	12月1日	報告	・令和6年度 学校推薦型入試（指定校制・公募制）合格者の選考結果について
18	12月7日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改正障害者差別解消法における本学の対応について</li> <li>・学生相談室・倉庫の使用用途変更について</li> <li>・リハビリテーション学部 作業療法学科助教増員における公募について</li> <li>・カマチグループ データベース構築について</li> <li>・学生の薬物使用防止に対する注意喚起について</li> </ul>
19	12月21日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション学部 作業療法学科 教員人事について</li> <li>・作業療法学科 シヤレンパートナー参画について</li> <li>・JR品川駅看板広告掲出について</li> <li>・本学における客員研究員について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹分野の教育体制について</li> <li>・教授会の議題における運営会議報告について</li> <li>・全学委員会での審議決定内容についての報告について</li> </ul>
書面	12月25日	審議	・新学習指導要領に対応した令和7年度に実施する入学試験の出題教科・科目の変更について
20	1月11日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度 東西大学研修計画について</li> <li>・令和6年度 大学広報費用予算について</li> <li>・教務委員会規程等の改正について</li> <li>・令和6年度 事業計画について</li> <li>・健康支援センター学生相談室カウンセラーの体制について</li> <li>・理学療法学科 臨床実習支援システム導入に伴うタブレット端末購入およびシステム説明会実施について</li> </ul>
		報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動について</li> <li>・作業療法学科 学生募集に係るカマチグループ リハビリテーション部門職員の同行依頼について</li> <li>・今後の学生食堂運営について</li> <li>・3法人合同学術集会の依頼について</li> <li>・大学による高次脳機能障害者地域生活支援拡大への取組について</li> <li>・ヒポクラテス設置について</li> <li>・1月20日九州カマチグループ 外科医師 合同懇親会について</li> <li>・令和6年4月1日~令和8年3月31日までの学部長等人事について</li> </ul>
21	1月25日	審議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学大学院関係規程について</li> <li>・校納金分納及び校納金未納者の除籍に関する規則の整備について</li> <li>・本学規程等の制定、改廃に関する要項</li> </ul>
		報告	・理学療法学科の東儀大学とのMOU締結について

			・作業療法学科への入学者増員のための施策について
22	2月9日	審議	・作業療法学科 教員人事選考について
		報告	・令和6年度 一般選抜前期試験の選考結果について
23	2月22日	審議	・看護学部 看護学科 教員人事について ・本学における教員配置の検討について
		報告	・令和6年度 予算について ・令和6年度 事業計画について ・令和6年度入学式等の日程について ・能登半島地震における志のお願い
24	3月7日	審議	・本学と韓国：東西大学とのMOU（協力推進協定覚書）締結について ・新入生および在校生向けアンケートの実施とその対応について
		報告	・令和6年度 令和健康科学大学 2学部3学科を含む体制について ・一般選抜後期入試合格者選考について ・後期成績判定、進級判定について ・学籍異動について ・令和6年度 令愛祭について
25	3月21日	審議	・リハビリテーション学部教員の補充（欠員補充）について ・労働基準法施行規則改正による規程の改訂について ・令和6年度 教員研究室 配置【案】について ・本学客員研究員受入規程について
		報告	・学籍異動について ・令和6年度 入試状況について ・大学院設置申請について ・日本学生支援機構奨学金の認定について ・理学療法士専任教員養成講習会修了について

## 2) 委員会活動

各々の課題について審議を行い、大学運営会議の審議を経て実施した。

委員会の概要は下記のとおりである。

会議名	任務	審議事項
大学運営会議	本学の重要事項を審議し、学校法人との連絡調整を図る	(1) 大学の将来構想に関すること。 (2) 中期計画及び年度計画に関すること。 (3) 教員の人事に関すること。 (4) 学則その他教育研究に係る重要な規則の制定及び改廃に関すること。 (5) 教育課程の編成に係る方針に関すること。 (6) 学生支援に係る重要事項に関すること。 (7) 教育研究の状況に関する点検評価に関すること (8) その他、大学の運営に係る重要事項
入学試験委員会	入学試験に関する諸課題を検討	(1) 入学試験の企画運営に関すること。 (2) 入学試験結果の検証に関すること。 (3) 入学試験の方法の検討に関すること。 (4) その他入試に関すること。
教務委員会	教務に関する諸課題を検討	(1) 教育課程に関すること。 (2) 教育成果の検証に関すること。 (3) その他学生の教務に関すること。
学生委員会	学生生活支援、就職支援等に関する諸課題を検討	(1) 学生生活の指導に関すること。 (2) 学生の課外活動に関すること。 (3) 学生の奨学金に関すること。 (4) 学生の就職に関すること。 (5) 学生の賞罰に関すること。 (6) 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること。 (7) 学生生活の実態調査に関すること。 (8) その他学生生活上必要な事項に関すること。

広報委員会	大学の広報等に関する諸課題を検討	(1) 大学の宣伝広告に関すること。 (2) 学生募集の広報に関すること。 (3) ホームページの運営・管理に関すること。 (4) 教育情報の公開に関すること。 (5) その他、大学広報に関すること。
研究委員会	研究の推進等に関する諸課題を検討	(1) 研究の推進に関すること。 (2) 研究倫理に関すること。 (3) 利益相反に関すること。 (4) 研究外部資金獲得に関すること。 (5) その他研究に関すること。
倫理審査委員会	指針に基づき、倫理的観点および科学的観点から、研究機関および研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に審査を行う。	
利益相反管理委員会	産学官連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理することにより、本学の行う産学連携活動を健全かつ活発に推進するとともに、本学及び教職員等の社会的信用及び名誉を保持する。	
国際化推進委員会	国際交流の推進等に関する諸課題を検討	(1) 海外の大学及び研究機関等との国際交流に関すること。 (2) 大学の国際貢献及び国際協力に関すること。 (3) 留学生の受入れに関すること。 (4) 課外における外国語学習の支援に関すること。 (5) その他国際活動に関すること。
図書館委員会	大学における図書館に関する諸課題を検討	(1) 図書館の管理運営に関すること。 (2) 蔵書の管理に関すること。 (3) その他図書館に関すること。
大学評価委員会※	大学評価に関する諸課題を検討	(1) 自己点検・評価に関すること。 (2) 外部評価に関すること。 (3) 認証評価に関すること。 (4) 教員の業績公開に関すること。 (5) その他大学評価に関すること。
FD・SD委員会	大学におけるFD及びSDに関する諸課題を検討	(1) FDの企画・立案及び実施、運営に関すること。 (2) SDの企画・立案及び実施、運営に関すること。 (3) その他、FD及びSDに関すること。
ハラスメント対策委員会	ハラスメントに関する諸課題を検討	(1) ハラスメント防止に関すること。 (2) ハラスメント調査に関すること。 (3) その他ハラスメント対策に関すること。
情報管理委員会	大学の情報管理に関する諸課題を検討	(1) 大学の情報システムの管理に関すること。 (2) 大学の情報セキュリティに関すること。 (3) その他大学の情報管理に関すること。
感染対策委員会	感染対策に関する諸課題を検討	(1) 本学における感染防止対策を企画及び実施に関すること。 (2) 感染対策に関する情報集に関すること。 (3) 感染対策に関する教育に関すること。 (4) その他感染対策に関すること。
臨床シミュレーションセンター運営委員会	臨床シミュレーションセンターの管理運営に関する重要事項を審議	(1) センターの運用に関する事項 (2) 予算に関する事項 (3) その他センターの運営に関する重要事項
健康支援センター運営委員会 (令和5年度新設)	センターの管理運営に関する重要事項を審議	(1) センターの運用に関する事項 (2) 予算に関する事項 (3) その他センターの運営に関する重要事項
キャリア支援委員会 (令和5年度新設)	センターの管理運営に関する重要事項を審議	(1) 学生のキャリア支援に関すること (2) 就職支援に関すること (3) その他センターに関する重要事項

3) 毎週水曜日の教職員合同の朝礼 (Weekly Campus Meet-up) 実施

令和4年8月より各種情報共有の場として毎週水曜日 8:30~8:45 おいて、本学教職員が一堂に会し実施。連絡事項、教員紹介以外に寺坂学長による講話等も実施している。

4) FD・SD 活動

本学の教育研究の質の向上を図り、また課題の解決を図るために、様々な研修会が企画、運営された。

実施状況は、下記の通りである。

<全学 FD/SD>

名称	新入教職員オリエンテーション	Weekly Campus Meet-up (旧全体朝礼)	APRIN eラーニングプログラム (eAPRIN)	「文献データベースの活用法」講習会	ハラスメントの現状について～パワハラを中心に～	シミュレーション学習の基礎	診療看護師 (NP) の未来を語る講演会	臨床倫理と生命倫理をつなぐトランスレショナル研究とその研究倫理
対象	新入教員・職員	教職員	教員	教員	教員・職員	教員	教員	教員
開催主体	事務局 総務課総務係	学長	研究委員会	図書館委員会	ハラスメント対策委員会	臨床シミュレーションセンター委員会	大学院設置準備室	研究委員会
開催日時	4月1日 (土) 9:30~10:30	毎週水曜日	4月~5月	9月11日 (月) 13:00~14:30	9月20日 (水) 15:00~16:00	オンデマンド (令和5年12月~令和6年1月)	12月6日 (水) 15:00~16:30	2月14日 (水) 15:00~16:30
目的	4月1日付新入教職員の紹介ならびに、本学の沿革、グループの理念等を案内、また各種連絡等オリエンテーションを兼ねた内容である。大学の概要を理解する	全教職員に対し、学長より訓示、教員挨拶、連絡事項等を共有し連携を図る	研究倫理を理解する	教員に対し、文献データベースの有効な活用法を紹介することにより、研究の遂行を支援する。	教職員に対しハラスメントの種類、内容また実例についてを講演し、学内のハラスメントに対する意識をもつ。	シミュレーション学習の導入支援を目的とした研修	診療看護師 (NP) として歩んできた10年を振り返り、その存在価値を語る。活用が求められています。本学においても期待されるNPについては是非この機会に、実践と理論を兼ね備えた講師の話をきくことでその働きについての知見を深める	教員に対し臨床倫理と生命倫理をつなぐ研究等につなげていく
外部・内部所属・講師	<内部> 事務局職員			<外部> EBSICO Information Services Japan (株) 吉田 雅徳 氏	<外部> 本國総合法律事務所 本岡 大祐 顧問弁護士	<内部> 臨床シミュレーションセンター長 増山純二 教授	<外部> 国立病院機構 長崎医療センター 統括診療部 脳神経外科 診療看護師 本田 和也 氏	<外部> 西南女学院大学 保健福祉学部 教授 笹月 桃子 先生
実施方法	対面	対面	eラーニングプログラム	対面	対面および録画	オンデマンド	対面および録画	対面および録画
参加者数	29名	80名程度	教員:21名 事務:2名	42名	86名	59名 看護学科31名、理学療法学科18名、作業療法学科1名、その他1名	35名程度	36名

<看護学部 看護学科 FD>

	第2回	第3回	第4回
名称	シミュレーション学習を活用した授業設計	授業設計の実際	シミュレーション学習の実際
担当	臨床シミュレーションセンター長 増山純二 教授		
対象	教員		
開催主体	臨床シミュレーションセンター		
開催期日	令和6年1月上旬~1月31日		
目的	シミュレーション学習の導入支援を目的とした研修		
実施方法	講義 (オンデマンド)	自己 (領域内) 学習 →授業設計の提出 →F B	演習
参加者数	31	31	31

※第1回は全学FDとして「シミュレーション学習の基礎」で実施。看護学部、リハビリテーション学部全教員必修  
※第2回~第4回は看護学部教員必修

<リハビリテーション学部 理学療法学科 FD>

	第1回	第2回	第3回	第4回
名称	コンピテンシー観点表について	関連病院訪問	国際学会基調報告	国家試験対策
担当	玉利教授	森下教授	岡講師、濱地助教	国家試験対策係
対象	学科教員	学科教員	学科教員	学科教員
開催主体	理学療法学科	理学療法学科	理学療法学科	理学療法学科
開催期日	4月27日(木)	6月8日(木)	6月22日(木)	11月27日(水)
目的	本学入学生が身に付ける要素と、各学年での達成目標を評価するシートについて理解を深めること	関連病院訪問についての基調報告で情報を共有した。	国際学会での学会発表について報告	国家試験対策の全体像と、今後の学科での対策の在り方について検討した。
実施方法	講義	講義	講義	講義
参加者数	18	19	19	19

<リハビリテーション学部 作業療法学科 FD>

	第1回	第2回
名称	作業療法(士)の認知度を高める	作業療法士の社会貢献のための戦略～企業とのコラボ
担当	本学入試・広報係 奥田邦夫 主務 時吉佑治 主務 長瀬泰信 顧問	近藤昭彦 講師
対象	学科教員	学科教員
開催主体	作業療法学科	作業療法学科
開催期日	4月12日(水)	12月13日(水)
目的	本学の広報活動において、作業療法士の認知度を高めるための施策について、高校へ訪問している主務の先生方より講和いただいた。	本学科の特徴的な学び「フィールドプラクティカル教育」を推進するため、アビスパ福岡と連携し、福岡の企業とつながり、フィールドを広げることを目的とする。本学の広報面、学生の就職活動を見据えての行動である。
実施方法	講義	講義
参加者数	11	12

## 5. 施設整備

### 計画

施設設備の不断の点検を行い、質の高い教育研究の基盤となる施設設備の充実を図る。

### 実施状況

#### 1) 学生寮、アパートの整備

学生寮については、設置から30年が経過しているため建物の老朽化が激しく、改修工事を行った。その結果、入居者の拡大に繋がった。

学生アパート トピア唐原Ⅱについて、築30年を経過したことから、業者と協議の上、外壁補修工事と部屋内装(リフォーム)工事を行い、入居者の拡大に繋がった。

また、学生アパートサンビュー和臼については、令和5年3月31日を以って業者との契約終了に伴い、本学での取扱・入居募集を終了した。

#### 2) テニスコート、フットサルコートの設置

令和5年9月からテニスコート・フットサルコートが完成し、スポーツ実践授業、サークル等に利用されている。

### 3) 1号館5階の空調機修理工事

1号館5階の空調機の経年劣化に伴い、部品交換・修理工事を行った。1号館は設立され20年以上経つため、今後、空調だけではなく、映像機器、トイレ等の修繕工事等は予想される。

## 6. 財務基盤

### 計画

学生獲得のため広報活動を充実させるとともに、経費の効率化を図る。

### 実施状況

#### 1) 広報活動の充実

学生募集における受験生の獲得および大学認知の最大化を目的として、対象者、その家族・出身高校等への系譜的なアプローチを行った。対象を高校1年生～3年生の範囲で設定し、生徒がどの時期にどのような進路アクションを起こすかをペルソナすることで、先回りした募集展開が実現できた。

認知-集客-募集-収穫の4つの活動 phaseのうち、開学2年目ということで、認知・集客を重視した募集戦略を組み立て、6月の高校教員向け大学説明会・高校生向け入試説明会、夏期・秋期・冬期オープンキャンパスに向けた動員施策を計画した。

進学媒体やWEB広告・SNS広告などの拡散型広報や進学相談会・オープンキャンパスなどの直接型広報、高校・学習塾への訪問といった間接型広報を実施し、認知を大いに広げることができた。

高校訪問では、年間317校へ1,230回の訪問を行い、イベントの周知、受験生動向調査、在学生の近況報告等で高校との関係構築を図った。

イベント集客数としては年間1,121名の対象者と接触した。多くの受験対象者は本学への受験意思を示し、各学科の受験移行率は60%～80%と非常に高い結果となった。

イベントの内容に関しても、来校リピート率を重視し、「対象者を満足させない企画」を展開することで、対象者との年間を通じた関係性を構築し、上記移行率を確立した。

#### 2) 入試状況

令和5年度入学生の、入試状況等は以下のとおりである。

開学後、初の入試であり、令和4年度(開学年度)に設置認可の関係によりずれてしまった総合型選抜に関しては、競合校と同時期に入試を実施することができた。志願者は令和4年度に比べ、大幅に増加し、その多くは総合型選抜・学校推薦型選抜に集中した。一般選抜において、多くの志願者を得ることができたことで、アドミッションポリシーに基づいた入学試験選抜を実施し、厳格な合否判定ラインを設定することができた。

学科	志願者	合格者 (補欠合格者)	入学者
看護学科	273名	108名(17名)	82名
理学療法学科	217名	104名(8名)	83名
作業療法学科	66名	70名(5名)	57名
計	556名	282名(27名)	222名

### 3) 経費の効率化

経費の効率化を図るため、予算の執行状況、予算外の経費を把握することに務めた。開学間もないこともあり、予算どおりに経費を執行するのが難しいのが実情ではあったが、予算実行を分析することにより今後の予算策定のプロセスを考慮することができた。

## 7. 特記事項

### 1) 健康支援センター学生相談室の活動

常勤相談員：男性1名 非常勤相談員：女性1名・男性2名の体制で専門学生を含むカウンセリングを行った。次年度については相談員の体制を変更予定である。

#### 【カウンセリング利用者数一覧】（令和6年4月1日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
総面接回数	4回	8回	13回	15回	11回	7回	9回	9回	8回	8回	8回	3回	103回
利用人数	4名	6名<4>	7名<1>	7名<3>	6名	6名	6名	5名	6名	6名<1>	5名<1>	3名	21名
(内訳)													
教職員	1名<1>	0名	1名<1>	2名<2>	1名	0名	0名	0名	0名	0名	1名<1>	1名	5名
福岡有造	3名	2名	4名	4名<1>	5名	5名	4名	4名	4名	4名	4名	1名	8名
和自り八	0名	2名	0名	0名	0名	0名	2名	1名	2名	2名<1>	0名	0名	5名
理学		(2名)<2>	(0名)	(0名)		(0名)	(1名)	(0名)	(1名)	(1名)<1>	(0名)	(0名)	(4名)
作業		(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	(0名)	(0名)	(1名)
令健大	0名	2名	2名	1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	3名
看護		(1名)<1>	(1名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(1名)	(2名)
理学		(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)
作業		(1名)<1>	(1名)	(1名)	(0名)	(1名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(0名)	(1名)
紹介状作成	0件	1件	2件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	1件	0件	4件

### 2) 臨床シミュレーションセンターの活動

学部学生の臨床実践力を向上させるために、シミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援している。学科問わずにセンター活用が昨年度より増加した。また関連病院、地域病院の臨床・医療スタッフへの研修をシミュレーションセンターにて実施。計284名へ研修を行い地域に根ざした医療従事者を育成する活動に貢献した。

関連施設ならびに学外の医療従事者を対象にした活動は、以下のとおりである。

また、学生を対象としたBLS研修を、計12回実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
センター主催研修 患者急変対応/ER	5回	5回	5回 *1回 中止	8回	4回	5回	4回	4回	2回 *1回 中止	3回 *1回 中止	7回	5回
和白病院研修	5回	3回	3回	1回	2回 *1回 中止	2回	2回	3回	1回			
日本救急看護学会 外部貸出			1回	1回			1回		1回			1回

※関連病院研修 - 36回/地域病院研修-11回（毎週火・水曜日に実施）

## 学習者一人ひとりに目を向けた教育の推進

### ～豊かな人間性、責任感のある看護専門職の育成を目指して～

#### 1) 看護実践力の向上

##### (1) 臨地における気づきの意識化と援助後のリフレクションの強化

全領域の実習においてアセスメント能力の向上を目指し、対象理解、看護の必要性抽出の指導強化を図った。

臨地実習においては教員のみでなく実習指導者と共に看護実践し、指導を受けた。ケア後のリフレクションを必ず実施し、安全・安楽・自立はもちろん個別の患者の状況に合わせたケア方法や工夫などよりよいケアに向けて学生に発問しながら具体的に指導を行った。また、なぜその援助が必要なのか、なぜその方法を選択したのかなど思考・判断の基準を学べるようにした。学生は経験値が低いため患者の反応や必要な観察項目に目が向いていないことも多いため、実施膳の留意点の確認、実施中の助言と共に実践後のリフレクションが重要であると考え実施した。しかしながら、学生による個人差が大きいいため、学生によって指導方法を変え個別の対応を行った。

##### (2) シミュレーター（シナリオ・フィジコ等）の活用、教育方法の工夫

臨床の場での実践力向上に向けて科目「臨床看護の実践」の授業内容を構築した。実習室を病室に見たてた場を作り、モデル人形を使用したり教員が患者役となったりできるだけリアリティをもたせるようにした。今年度は教員二人で科目を担当し、多重課題のシミュレーションと看護の優先度の考え方、看護実践の一連を実践した。また、学生の思考と判断、その根拠について検討する時間をつくり判断能力につながるようにした。グループワークを多く取り入れ、シミュレーション後の振り返りでは次につながるように具体的な行動を検討できるようにした。また、毎回授業の後に学生にレスポンスカードを記入してもらい質問や意見を次の授業に反映させるようにした。授業期間の途中に臨地実習が2ヶ月入ったため、学生の反応を見ながら最後に予定されているOSCEにつながるように教育内容の順序性を変更し、学びが促進されるよう工夫した。

今年度4月以降の実習はすべて臨地で経験できている。母性看護学実習において意図的に1週目は実践活動外学習とし、2週目からの臨地実習に向けて産褥期・新生児の看護、分娩期の看護（帝王切開含む）、妊娠期の看護を確認し、実際に演習の中で母性領域の看護技術の確認を行っていた。その結果、外来実習、病棟実習での看護の理解・実践につながった。

##### (3) 技術教育の強化

看護技術に関しては、受け持ち患者や病棟の患者で見学・実施できる項目について経験できるように学生はもちろん担当教員も意識した。技術経験表は実習1クール（3週間）が終了する毎に担当教員に提出し、未経験の項目を意識して次の実習へ臨んだ。統合実習中には多くの経験ができ、例年と比較して同程度の経験は出来ており、救急処置技術、検査の見学、指導場面の見学は昨年度以上に経験率は上がっていた。

看護師国家試験終了後、卒業前技術演習を実施した。学生の経験度や希望を加味し、主に注射等診療の補助技術について学生個々に教員がつき、確認・指導を行った。実施後のアンケート結果では満足度が高く、実習から数ヶ月離れていたため不安が減り、自信につながったという意見であった。

#### (4) 教育力向上に向けた教員研修の積極的な受講

看護部門の中央研修は6月、9月の計2回計画された。6月のテーマは「協同学習」による授業づくりであった。実際に学生の立場で体験し、その技法の説明を受けることで理解が深まり満足度の高い研修となった。すぐに自分の授業に取り入れることができる方法であった。

9月のテーマは「看護教育現場での変革を成功させるためのプロセス」でより高みを目指し、変化を起こしていくための方法を具体的に学んだ。

5月にカマチグループの第2回看護を考える講演会に教員・学生共に参加した。医療における『innovation』となる看護師を育てるというテーマで3名の講演を聴講した。学生には少し難しい内容であったが、変革の成功のためには重要な一員であると認識していた。

学会や研修に参加する場合は学校から補助があるが、今年度は受講希望が上がってこなかった。個人的に介護支援専門員の資格試験に合格し研修を受けている教員、学会での報告のために論文を修正している教員、専門分野の研修を受けている教員などがいた。

## 2) 学生満足度向上の実現

### (1) 学生満足度の向上のための環境調整

令和健康科学大学、福岡和白リハ学院と福岡看護専門学校の3校で毎月1回連絡会議を開き、話し合いながら施設を利用していた。3年生は教員室のある2号館（新校舎）の講義室を卒業まで使用出来ており、学習環境は整えられた。

実習中のグループ活動等についても2号館の演習室を使用出来、良い学習環境であった。11月より本格的に国家試験対策を行ったが、1号館の講義室も利用しながら集中できるような学習場所の確保を行えた。コピー機についても不自由なく使用できている、必要時、事務の協力を得ることができた。

昨年度の満足度調査の結果は満足度が高く4点満点の平均3.5点であった。自由記載においても大きな要望は無かったが、就職説明会の情報提供の時期、パソコンのネット回線、ロッカーまでの距離や大きさに対する希望があった。他校との兼ね合いがあり改善が難しかったり、ハード面は改善できない内容があったりしており、引き続き学生の協力を得ることになった。

今年度の満足度調査の結果も満足度は高く、自由記載には感謝の言葉が述べられていた。昨年同様、パソコンが古いことは改善できず（大学生は個人もちのため必要ない）、貸出用のパソコンを準備していたが、パソコンの利用環境についてのみ満足度がやや低かった。

### (2) 自ら学び探求していく教育方法の工夫

3年生の始業時にその年度の履修計画を学生に示し、イメージできるようにしていた。計画的に学習に臨む必要性を説明しているが、先を見越して行動できる学生は少ない。適宜声をかけ、国試対策、ケーススタディのまとめ、課題等への取り組みを促した。

ルーブリック評価は実習、技術教育において取り入れており、学習活動として指標になっている。しかし、ルーブリックにあることのみを実施しようとするいわゆるルーブリックつぶしをしているような学生がいた。実習に合格することは大切であるが、患者にとって必要な看護を実践できているかが大切である。実習に臨む姿勢が自己中心的になっている学生にはその都度指導した。

学校生活におけるクラスでの活動はコロナ禍で学業以外に取りくむ機会が少ないためか、仲の良いグループ等帰属意識はあるが、今年度も個人主義の学生が目立つ印象は否めなかった。職業教育としても、個を大切にしつつ「チームの中の一人である自覚」が持てるよう必要時投げかけていく必要があり、実践してきた。社会人基礎力を高めるために、実習のグループ活動を通して

自己主張のみではなく他者を認めることの重要性を意識できるように投げかけてきた。ケア実践においては学生間で協力し合うので患者を受け持たせていただいている責任が身につくよう実習中に連携を意識できるようにしてきた。

問題解決能力については、学生の一部は問題に気づかないことがあった。解決に向けて筋道を立てるよう教員が丁寧に導いていった。

### 3) ICTを活用した教育の推進

#### (1) ICTを活用した授業・実習指導の工夫

学生一人ずつにIDを付与し、医学映像セレクトの看護のためのアセスメント事例集等動画を活用し患者理解やアセスメント～計画立案を行う教材とした。

IPadで演習風景を録画して演習後のリフレクションに使用した。動画で観ることで学生の振り返りには効果的であった。

#### (2) 効果的なWi-Fiの活用

教育環境についてWi-Fi環境は整っている。図書館の蔵書数、学習環境、文献検索等、学習を促進する環境となった。

### 4) 各学年の履修率・卒業率向上のための取り組みの実施

#### (1) 国家試験合格率100%実現に向けての各学年の取り組み強化

国試まで5期に分け、国家試験対策を実施した。

1期は専門基礎模試の実施、模擬試験の振り返り方法の確認、自分なりのまとめノートの作成方法、レビューの使い方など説明した。成績下位者にはプリントを準備したり、個別に関わりをもった。実習の無い学内日には頻出疾患の理解が深まるように教員が講義を実施した。

2期は夏期休業中に成績が伸び悩んでいる学生に対して教員によるセミナー(10科目:解剖生理・疾患)を実施し、全員に対して特別講義を実施した。

3期は実習の無い学内日に必修対策を実施し、模試結果が悪い学生の個別面談、学習状況の確認と方法の指導を行った。

4期は教員10名でそれぞれ学生3~5名を受け持ち、チューター制を取り関わった。模擬試験の結果推移の分析、学習方法やストレス対応、不得意科目については領域担当の教員へ学習会を依頼し合ったり、責任をもって学生指導に当たるようにした。模試結果が下位の学生については11月より個別学習会を開始した。冬期休業中は夏同様、成績が伸び悩んでいる学生に対して教員によるセミナー(10科目:疾患看護)を実施した。

5期は繰り返し多くの問題を解けるようプリントの準備や必修対策を強化した。

年間を通して国試対策委員と担任が適宜クラスの状況を話し合い、情報交換とその後の対策について検討する場をもった。

#### (2) 主体的学習の支援、学習方法の確立、効果的なグループ活動

実習中の学内日は時間内でどんな課題に取り組むか時間管理を含め学生が考える機会を作った。学生がやらされ感を覚えないよう、目標を示し、どんな方略を立てるのか考えられるようにしたが、実際はある程度教員が道筋を立てなければ進まないことも多かった。

実習グループ、成績に近いグループ、仲良しグループと状況に合わせ組み合わせながら活動を行った。

### (3) 臨地実習での学びの実感とタイムリーな指導

実習施設の協力については実習指導者会議にて実習目標・内容の提示、学生の背景について共通理解した後に、病棟ごとに担当教員が学生の個々について情報提供し指導者と共に学生の指導方法について検討している。学生の現状を理解され、協力する姿勢が強い。実習記録の指導よりも臨地での看護実践の介入・指導を中心に関わっていただいた。そして、ケア後のリフレクションを強化していただき、振り返ることでケアの質を高められるようにした。また、経験の少ない看護技術項目の提示や到達度を示し協力を得た。

### (4) 確実な単位修得への支援

2年次科目の未履修者3名は夏期休業中に専任教員にて集中講義を行った。欠席なく臨み、単位を修得した。

令和5年3月までの実習で未履修科目があり夏期休業中に再実習に臨んだ2名、4月～6月の実習で未履修科目があり夏期休業中に再実習に臨んだ1名、病休で欠席し追実習となった1名、前期卒業を目指して統合実習に臨んだ1名の計5名は教員がマンツーマンで担当し実習指導者の協力をいただき細やかに指導を行うことで、全員が単位を修得できた。

7月以降の実習で未履修科目があり再実習・追実習となった学生がいたため、11月以降も実習は継続した。すべての再・追実習が終了したのは1月26日であったが、単位修得でき、国家試験受験後、卒業出来た。

4月の時点の学生数は44名であったが、前期卒業を目指していた2名は前期で卒業し、42名は3月に卒業出来た。44名全員が国家試験を受験できた。

### (5) カウンセリングの効果的な活用、学生個々とのかかわり

学校生活において気になる学生については保護者に情報提供し、共に支援できるような関係性を作るよう心掛けてきた。

スクールカウンセラーはこれまでの2名は1～2回/月の非常勤であったが、令和健康科学大学には常勤のカウンセラーがおり、急にカウンセリングを受けたい時も対応可能となり、調整した。

これまでの非常勤のカウンセラーによるカウンセリングを継続的に受けている学生は2名前後で、常勤のカウンセラーによるカウンセリングは2名の学生が受けた。

## 5) 経費削減

### (1) 前年度も実施した経費の見直しをして継続して実施

教員会議は資料をドライブ上にアップし各自の端末から確認することにより、ペーパーレス化を実施した。また、押印台帳・発簡文書台帳等はドライブでの管理とし、本来掲示板に掲示する事項をライン@を利用し、経費の見直しを行った。

## 6) 職員力の向上

### (1) 個人目標の設定と評価

学校法人巨樹の会 看護部門で共通のキャリア別達成目標シート（熟達・中堅・一人前・新任）を活用しつつ、個々で今年度取り組もうと思っていることや目標を掲げている。10月に中間評価、3月に年度末評価を行い管理者による面接を実施しフィードバックしている。

## (2) 教育目標の設定と評価

年度始めに管理目標・計画立案、教育実践・学校運営を実施し、中間・年度末評価を実施した。中間評価では後期に向けての計画を再考し、実践した。具体的な取り組みとその成果をできるだけ客観的に表現した。

令和6年3月で閉校となったが、全員が卒業出来た。

## (3) コミュニケーション能力とリサーチ力を駆使した組織づくり

教員歴は幅広く、それぞれの価値観がある。教務主任を中心としたカリキュラム担当、実習調整者を中心とした実習担当に分かれ、協力しながら学校運営にあたっている。3年生しかいないため情報共有を密にし、全員で3年生に十分に関わることができた。

教員が意思決定、行動に判断基準を明確に持ち、基本は学生の平等性を意識しながら対応し一人ひとりの教員が自律できるように意見交換するようにした。チームワークよく、建設的な意見のもと、問題解決もスムーズであった。

また、同施設で令和健康科学大学、福岡和白リハビリテーション学院、福岡看護専門学校の3校を運営している。3校の教員間、教員・事務間で必要時、情報共有を行い、学生の学びの保証や教職員の勤務環境を整えることができた。

## 7) 閉校に向けての確実な大学への引継ぎ

### (1) 学籍簿等の書類整理や保管

学籍簿は、令和健康科学大学教務係へ申し送りを行った。また、卒業証書授与台帳は整理し、所定の場所へ保管を行った。

### (2) 備品等の整理・廃棄、管理体制を大学へ移行

1号館1109看護実習室、1411看護実習室2の整理を3月22日に行い、不要品と令和健康科学大学が使用する物品とに分別した。資産登録している資産等については、令和6年度以降に移動または除却の処理を行う。また、証明書等の発行は令和健康科学大学の教務係が引継いだ。それ以外の閉校に伴う事務作業は、同校の各係が引継ぎ職務を遂行する。

### (3) 管理者（学校長）への最終的な確認と報告

令和5年度月2回実施の管理会議内で、閉校するにあたって学生の状況、事務手続き等について報告をした。なお、管理会議は2月21日を以って終了した。

～地域から信頼される学校作り～

1) 学校教育力の向上

第59回の国家試験合格率は理学療法学科 93.1%（全国新卒 95.3%）作業療法学科 94.9%（全国新卒 91.6%）であった。在校生の学力に関して、年度末実力テストの結果からは全国と比べて平均点を下回る学年もあるため基礎学力の定着に課題が残った。そのため令和6年度は学習アプリを活用するなど基礎科目の強化が必要である。

法人による教員研修会には全員参加し、ICTの活用や授業設計などを学んだ。教員間授業評価および学生による授業評価を実施し、学生の授業満足度は概ね良好であるが教育効果としては今後も工夫が必要である。また教員の教育力や専門性向上に向けた学会参加などはコロナが5類となり研修も増えたが、一部の教員の参加のみとなった。今後は教員の質向上のために専門性を深め、基礎科目についても内部教員によるわかりやすい講義の展開に努めていく。

2) 社会の要請に応える研究を推進し、高度な実践能力を有する専門職者の養成

令和5年度はリハビリテーション教育評価機構の教育評価を理学療法学科、作業療法学科ともに受審しすべての学科コースにおいてA判定の認定結果であった。助言結果をもとに引き続き教育内容の強化を図りたい。関連施設職員による研究協力などは実施したが、本校教員による研究は実施に至っていない。

またWFOTの認定が未認定になるなど、教員の専門職としての研鑽が課題となった。

3) 地域社会貢献

近隣の中学校、高等学校への人材派遣（部活動支援や職業体験）などの地域貢献については、高校のウエイトリフティング、ハンドボール、バレーなどへの部活動および競技支援を実施した。

地域貢献活動として、今年度は感染状況も落ち着いたため学院祭の開催を検討したが準備期間が短く最終的に開催に至らなかった。学校の設備開放については臨床実習指導者講習会への会場借用や講師派遣などへの協力を行った。

作業療法学科では、講義の一環として地域高齢者施設へのボランティア活動を組み込んでおり、学生たちが主体的にレクリエーションを企画・実施することで対象者理解を深めている。

献血へのボランティアは多くの学生が参加できた。またテーピング講座も開催した際に、在校生がボランティアとして講座への協力を担ってくれた。その他ボランティアの依頼がある度に学生へアナウンスを行ったが参加者の把握が出来ていない。

学内ボランティアは学生広報委員を設置しオープンキャンパスの案内を学生主体で進めていき接遇やコミュニケーション能力の向上を図った。

4) 組織運営システムの体制強化について

昨年度の反省を踏まえ情報伝達体制のさらなる強化を図り2回/月の役職会議、1回/月全体会議において職員との情報伝達や意思統一を図った。業務分担も実施したが連携が不十分な点があった。職員の退職により運営体制の見直しや事務職員の応援も必要となった。

## 5) 教育環境の整備

学生寮の変更が必要となり男子寮から整備を行った。今後は女子寮も検討が必要。

学内では、講堂の音響映像設備（プロジェクター2台設置）や館内放送設備の修繕を行い、講義はもちろん、オープンキャンパスにおいても有意義に活用できている。

その他、教育備品の老朽化も認めるため、次年度も引き続き整備していく。

## 6) 安定した財務基盤の維持

令和6年度の新入生は理学療法学科昼間コース74名、作業療法学科41名、理学療法学科夜間コース12名の合計127名となった。定員には満たないものの、ここ数年の定員充足率に大きな変化はなく、財政状況は安定している。

引き続き入学定員の確保と中途退学者の低減が緊要であり、そのための取り組みの一つとして、在校生の状況（在学中の生活の様子・卒業後の就職先）を報告するために高校を訪問し、進路指導部に対して本学院の学生指導の取り組み等を説明し、理解とともに関係を深めている。

また、ガイダンスの参加により学校情報の伝達、積極的なSNS活用により高校生目線での配信に努めた。オープンキャンパスでは在校生の協力により学生目線での情報発信をしてくれたため参加満足度は高く、受験行動への歩留まりも71.2%と上昇した。しかし夜間コースの募集状況が近年は定員を大幅に欠けているため、次年度からは夜間コースの募集停止が決定した。

Web出願制度による入学試験は、利用頻度が2件から5件へと増加した。令和6年度からはすべての入試区分でWEB出願へ切り替える準備をしている。

施設設備の老朽化による修繕等については、年々増加しているため、緊急度の高いものから対処し、突発的な財務支出を抑えるために、現状把握を的確に行い、効率的に整備を実施する必要がある。

経費削減に関しては、紙媒体による資料配布をデータ配信にするなど経費削減と同時に、学生の資料紛失を抑制する効果にもつながった。

信頼され、選ばれる学校

## 学生の学力強化と ICT 教育、多職種連携教育(IPE)の強化

～ ひとりひとりを大切にしながら ～

### 1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

#### (1) 両学科協力 IPE の充実 (両学科)

##### ・看護学科

新カリキュラムでは1年次に「専門職連携教育Ⅰ」として専門職連携の基礎を学び、2年次では「専門職連携教育Ⅱ」として専門職連携の構築を目指す。また、3年次は授業科目ではないが、各学年の学習進度や学習経験に応じて学びを積み重ねることができるように、教育内容の順序性を踏まえた合同演習を実施。学びを蓄積することで、最終学年では、対象の健康や生活を守る医療の提供に向けて、お互いの職種の専門性を活かしながら、対象の目標達成、問題解決に向けてより良い方法を検討するカンファレンスが実施できている。就職後の多職種連携・協働に活かす学びとなっていると考える。

##### ・理学療法学科

各学年で後期に実施。多職種の役割について学ぶことができる。各学年でテーマを決めており、多職種の仕事の理解、連携しての患者介入、カンファレンスなどを実施。実習や卒後に向けた学習に役立っていると考えられる。

#### (2) シミュレーション教育の充実

##### ・看護学科

1、2年生では、基礎看護技術の学習や専門領域の演習など各学年の学習進度や既習知識に応じた学習内容でシミュレーションを実施している。3年生は各実習目的や目標に応じた学習内容を検討し、教員全員で協力しながらシミュレーションを実施している。また、高機能シミュレーターを継続リースすることで、シミュレーションを円滑に実施できている。

### 2) 学生満足度向上に向けた取り組み

#### (1) 教員の教育力向上

##### ・看護学科

校内でのシミュレーションや日々の学習習慣の定着に向けた取り組みなど、学生の学修に創意工夫することが出来た。それを評価し、学科会議で、教員全員で検討することで、教育の質の向上につながっている。

法人主催で開催される中央研修には、全員研修に参加した。協同学習など実践に活用できる内容であり、日々の教育に役立っている。その他、対面やハイブリッドで開催される学会や研修会にも参加し、日々の教育に活用している。

##### ・理学療法学科

シラバスを半期ごとに見直し、国家試験及び臨床内容に即したものにしている。また、教員相互の講義評価を実施し、意見交換の場を設けている。

法人で開催される教育に関する研修会には全教員が参加している。また、学会等についても、全ての教員が参加し、学科会議等にて研修報告会を実施することで情報を共有している。

## (2) 教育教材の充実

### ・看護学科

今年度も継続して高機能シミュレーターをレンタルし、学内シミュレーションや看護技術の講義や演習、実習の代替としても有効に活用している。新カリキュラム「情報リテラシー」での電子カルテ利用方法の演習や、シミュレーションを充実させるために事例展開（電子カルテ）できるアプリを購入して活用している。e-ナーストレーナー（アプリ）を継続購入することで、動画やテキストを自由に使用できる学習のしやすさを提供した。

### ・理学療法学科

教材としては、昨年・一昨年に老朽化した機器や物品を購入したため、高額な機器は購入していない。開校から20年が経過しており、古くなった機器類については、適宜検討していく。

## (3) 進路（就職）支援の強化

### ・理学療法学科

4月にお仕事サポートセンター職員による「履歴書の書き方」「面接での注意点」、青山商事職員による「スーツ着こなし講座」を実施した。

6月には合同就職説明会（令和健康科学大学）を対面で開催し、190施設（前年177施設）のご参加をいただいた。また、8月には本校にて対面での就職説明会を開催し、81施設（前年83施設）のご参加をいただいた。

担任、就職委員を中心に、学生の就職活動状況の把握に努め、学科内での情報共有が十分に図られた。また、面接指導や履歴書指導・添削もシステム化するなど、昨年からの改善がなされた。しかしながら、学生の動きを促すことが不十分であり、内定状況は例年より低い数字となっている。

次年度は12月までに内定率100%が達成できるよう、学生への促しを積極的に行う。

## (4) 学校および学生寮の施設・設備の改善

今年度は開校以来、一度も実施していなかった外壁の補修および塗装、屋上の防水シートの全補修を実施した。

毎年であるが、学校および学生寮については、年度末に補修が必要な箇所を点検し、修理を実施している。

次年度以降も、エアコン交換、床材の張替えなど、開校して20年を迎えるため、様々な箇所の補修や全面改修などを検討していく。

## 3) 研究

### (1) 教育関連の研究および関連病院と連携した研究の促進

#### ・看護学科

新カリキュラムとして重要な臨床判断能力の育成に関しても、様々な工夫を行い実践に生かしており、臨床判断能力の育成に関する研究が1稿全国誌に掲載された。また、新型コロナウイルス感染症対策としての取り組みも掲載され、教育としての研究は行っているが、関連病院との連携した研究には至っておらず、今後の課題である。

1	<p>タイトル：「地域医療に求められる臨床判断能力を育てる授業とは」</p> <p>看護展望, Vol48, No. 4, p 128-131, メヂカルフレンド社, 2023</p> <p>執筆者：田中 亜紀子, 小林 愛, 鮫島 陽子</p>
2	<p>タイトル：「看護基礎教育における新型コロナウイルスへの対応」</p> <p>山口県看護協会新型コロナウイルス感染症 感染拡大への取り組み報告書, 第2版, p 105-106,</p> <p>公益社団法人 山口県看護協会, 2023</p> <p>執筆者：田中 亜紀子, 小林 愛, 鮫島 陽子</p>

・理学療法学科

現在、本校職員が下関リハビリテーション病院の理学療法士との共同研究として、①訪問リハビリテーションに関する研究、②脊椎骨折に関する研究、③脊柱管狭窄症に関する研究を実施している。

#### 4) ICT 環境の運用

##### (1) ICT 環境・設備の改善

学生との双方向の教育ツールとして、google class roomを導入した。情報伝達・課題配信・課題提出・採点等に活用している。

保護者との連絡手段としてアプリ（スクリレ）を導入し、タイムラグの無い連絡ツールとして利用したが、保護者のスマートフォンの機種変更後の対応、年度初めの情報更新などに時間を要し、連絡が届かない事象が散見された。今後は別のアプリの利用について検討していかなければならない。

##### (2) ICT 教育力の向上

・看護学科

アプリを活用し、プレゼンテーションを行ったり、情報共有したり、電子テキストを用いて教育している。また、シミュレーションで看護技術の実施状況を動画撮影し、振り返りに活用するなど、教員はもちろん学生たちも自主的に活用している。看護研究の時間に文献検索方法を学び、また情報リテラシーでSNS活用方法を学んだ。また、オンラインでの授業もタブレットを用いて、実施している。国家試験対策として、アプリを用いて試験問題を解き、自分なりに解答を導き出すように指導している。正答率や取り組み状況など確認しながら指導を行っている。

・理学療法学科

教育用アプリの活用、動画による実技テストの振り返り、国家試験対策や小テスト、アンケート実施など、タブレット活用による教育を継続した。遠隔授業の実施にもタブレットを活用している。タブレットの使用方法は限定的であり、もっと幅広く使えるよう、全国規模の展示会に教員が参加し、新しいアプリなどの情報収集を行っている。

## 5) 退学者抑制の取組み（進級率・卒業率 90%以上の実現）

### (1) 学生の情報共有と問題の確認と問題に応じた早期対応

#### ・看護学科

今年度の退学者は 10 名（1 年生 2 名、2 年生 6 名、3 年生 2 名）であり、退学率は 8.8%（10 名/113 名）となり、前年度退学率の 2%（3 名/118 名）よりも多い結果となった。今年度の退学者については、昨年度同様、メンタル面の影響による体調不良者が半数と多かった。定期的に担任と面談したり、保護者とも連携をとり、必要に応じて学校カウンセリングの使用を促していく。残り半数はモチベーションの低下が主な要因であった。退学者をなくすためにも看護を学ぶ楽しさを教授できるように、授業の工夫や学生の主体的な活動を支援していきつつ、学生個々の支援を行っていくことが必要である。

#### ・理学療法学科

今年度の退学者は 10 名（1 年生 7 名、2 年生 2 名、3 年生 1 名）であり、退学率は 6.2%（10 名/161 名）となり、前年度の 4.1%（7 名/170 名）よりも多い結果となった。

担任を中心として定期的な面談、保護者連絡、スクールカウンセリングの促しを行っていた。また、成績不良者を少なくするため、学年やクラス、各教科担当教員による個別学習など工夫した。今年度の退学者については、成績不振というよりは、「勉強に疲れた」や「進路変更」を理由にする学生がほとんどであった。

改めて、オープンキャンパスなどの入学前に職業理解や学習の大変さについて説明するとともに、退学者「0」に向け、職業の魅力を発信する講義、修学意欲の高まるような講義や学内イベント、学習支援の質を高めることが必要である。

### (2) カウンセリングの活用とカウンセラーとの連携

#### ・看護学科

定期面談や必要に応じての面談で把握した学生の状況を相談し、学生にカウンセリングを勧めたりしている。また、カウンセラーと連携しながら学生のサポートも行っている。

#### ・理学療法学科

必要に応じて学生面談の中で、カウンセリングを勧めるケースもある。カウンセラーとの連携は常に行っており、必要に応じて教員から、あるいはカウンセラーから相談を行えるようにしている。

### (3) 保護者との連携

#### ・看護学科

各学年で保護者会を定期的に開催し、学年のカリキュラムや進学就職等必要なことを報告している。成績が低迷している場合など、適宜、担当から保護者に連絡し、必要に応じて三者面談を実施。保護者への連絡用アプリを導入され、必要に応じ活用するようにしている。

#### ・理学療法学科

授業の欠課が続いたり、様子が変わったことがあったり、成績が低迷している場合など、適宜、学校から保護者へ電話連絡をするようにしている。

また、今年度から保護者連絡用アプリを導入し、スピード感を持って全体へ情報を発信するような事象については利用した。しかしながら、保護者のスマートフォンの機種変更後の対応、年度初めの情報更新などに時間を要し、連絡が届かない事象が散見された。

### (4) 学習支援強化

#### ・看護学科

1年生は2年生のチューターから学習方法やノートの取り方を学んだり、看護技術も放課後や空き時間を活用して直接指導を受けている。この体制をとってから2年生の自覚と縦のつながりができてきた。教員は指導している場面に参加し、助言したり支援している。学力低迷者は学習習慣もなく、成績が上がらないため、担当教員がその都度面接し、指導している。3年生は模擬試験の結果を踏まえ、教員全員がチューターとして指導してきた。また、夏期および冬期にセミナーを設け指導してきた。しかし、一部の学生は登校して学習することや学習支援を拒否する傾向があり、結果に結びつかなかった。学習支援体制や方法について検討していく。

#### ・理学療法学科

1・2年生については、時間外で小テスト・確認テストに加えて、教科担当教員による課題や口頭試問等を実施し、学習を促すことを行ってきた。学習効果は認められるものの、不十分な学生もみられるため、より個別性を重視した関りの検討が望まれる。

3年生については、臨床実習において教員による実習地訪問を実施し、学生個々の問題点を早期把握と解決に努めた。理学療法総合学習および国家試験対策では、成績不良者に対し早期より少人数対応のセミナーや個別指導を実施した。しかしながら、その学習支援を拒否する学生も散見され、結果が伴わなかったため、この点を次年度以降の学生へ周知するなど、学習支援を徹底していきたい。

### 6) 国家試験合格率 100%実現に向けた取り組み

#### (1) 学年に応じた学習指導

##### ・看護学科

国家試験全員合格は看護学科管理目標でもあり、4月初めの学科会議で各学年の教育計画を共有した。

今年度から1・2年生合同で産業医科大学で解剖見学を実施した。2年生も共に学ぶ機会を得られているため、2回解剖見学できるようになり、それぞれの目的に応じて効果的に学ぶことが出来ている。

1年生：新カリキュラムとなり「生活を営む人体機能演習」では、解剖生理学・病理学での既習知識を活用しながら人体模型やマインドマップを作成し、食事、活動、排泄等日常生活行動と併せて学習した。年度末には低学年模試を実施し、実力を確認している。

2年生：人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進を中心に繰り返し学習しながら学習習慣の定着とともに基礎学力の向上を図った。前期に低学年模試、後期に必修問題模試を実施。低正答率の学生は春期休業中に必修問題を解きながら繰り返し学習した。

3年生：4月に112回看護師国家試験を実施し、問題の傾向を確認した。年間の模擬試験計画を立案し実施。模擬試験の成績低迷者に対し夏期、冬期にセミナーを実施して学習支援を行った。しかし、成績低迷者は再実習とも重なり、なかなか成績を伸ばすことが出来なかった。教員全員でチューターとなり、個別に指導してきた。学生の状況は随時学科会議内で共有し、冬期休暇中にもセミナーを実施した。成績低迷者のうち現役生以外がセミナーや模試、学習支援に参加せず、行動変容がみられず、結果は厳しいものとなった。

第113回看護師国家試験合格率：87.2%（34名/39名）

・理学療法学科

年度初めから、国家試験対策についての年間計画やシステムについて検討した。

1・2 年生：年間を通じて、解剖学・生理学を中心としたセミナーを実施した。また、グループ校統一模試を作成し、半期毎に実施した。さらに全国模試『医歯薬3科目模試』を年度末に実施し、知識の習熟度を確認している。

3 年生：個人学習と 2～3 人での口頭試問、教員による分野セミナー、個別対応を活動の主とした。

模擬試験後には「模擬試験セミナー」として教員による全問題の解説を実施し、知識の定着や症例イメージを伝えるなど工夫した。

成績不良者への対応については、11 月から土曜・祝日登校を義務付け、教員による少人数対応を行った。成績不良者の選抜についても、学年主任、担任、役職者で最新の成績や学習への取り組み状況などを頻回に協議し、躊躇することなく見直しを行った。

今年度は、自身の都合による学習支援への参加を拒否する学生も散見され、その学生は厳しい結果となった。

第 59 回理学療法士国家試験合格率：91.5% (54 名/59 名)

(2) 教員の指導力強化

・看護学科

中央研修や学会に参加を促し、積極的に参加している。今年度は対面だけではなく、ハイブリッドでの研修も増え、より参加しやすくなり、教員全員が研修に参加している。

1	研修名：教務主任養成講習会 期 間：令和 5 年 4 月～令和 6 年 1 月 内 容：教務主任養成 e－ラーニング、対面授業	(日本看護学校協議会) 対象：教務部長 1 名
2	研修名：国家試験分析 期 間：令和 5 年 4 月 22 日 (土) 内 容：第 113 回国家試験に向けた学習支援	(連携企業等：メディックメディア) 対象：教員 2 名
3	研修名：国家試験分析 期 間：令和 5 年 4 月 26 日 (水)～5 月 25 日 (木) 内 容：第 113 回国家試験に向けた学習支援	(連携企業等：学研) 対象：教員 10 名
4	研修名：第 2 回カマチグループ看護を考える 期 間：令和 5 年 5 月 13 日 (土) 内 容：「医療における『innovation』となる看護師を育てる」 「看護現場の innovation を成功させるには」	(カマチグループ看護部及び学校法人巨樹の会主催) 対象：教員 10 名
5	研修名：令和 5 年度 日本看護学校協議会学校長会 期 間：令和 5 年 5 月 31 日 (水) 内 容：看護の動向と看護師等養成所の管理・運営等の報告	(日本看護学校協議会) 対象：教務部長 1 名

6	研修名：令和5年度 教育研修 期 間：令和5年6月24日（土） 内 容：LTD（話し合い学習法） 基礎編	（連携企業等：中央研修） 対象：教員 10名
7	研修名：令和5年度中四国ブロック研修会 期 間：令和5年7月29日（土） 内 容：「臨床判断能力開発のための思考発話」	（日本看護学校協議会） 対象：教員 1名
8	研修名：第35回 日本看護学校協議会学会 期 間：令和5年8月3日（木）～8月4日（金） 内 容：「共にあゆみ、共に生きる」	（日本看護学校協議会） 対象：教員 2名
9	研修名：第33回 日本看護学教育学会学術集会 期 間：令和5年8月26日（土）～8月27日（日） 内 容：「看護学教育のトランスフォーメーション」	（日本看護学教育学会） 対象：教員 3名
10	研修名：第32回 日本看護教育学会 期 間：令和5年9月6日（水） 内 容：「看護職者と可能性を拓く教育と研究」	（日本看護教育学会） 対象：教員 3名
11	研修名：令和5年度 教育研修 期 間：令和5年9月30日（土） 内 容：「看護教育現場での変革を支えていくためのプロセス」	（連携企業：中央研修） 対象：教員 10名
12	研修名：令和5年度日本看護学校協議会副学校長・教務主任会 期 間：令和5年12月14日（木） 内 容：「改めて、今、看護の力を考える」	（日本看護学校協議会） 対象：教員 1名
13	研修名：令和5年度日本看護学校協議会 ICT 教育研修会 期 間：令和5年12月15日（金） 内 容：「看護師等養成所のDX推進にむけて」	（日本看護学校協議会） 対象：教員 1名

・理学療法学科

教員間授業評価を実施し、互いにフィードバックを実施している。しかし、学科内での情報共有やベテラン教員に指導、他校の同じ教科担当者との情報交換や授業見学など、今後充実を図っていく必要がある。

研修会参加については、新型コロナウイルスによる行動制限も緩和され、全ての教員が研修会へ下記の通り参加している。

1	研修名：教育 ICT ソリューション EXPO (連携企業等：EDIX 実行委員会) 期 間：令和 5 年 5 月 10 日 (水) ～12 日 (金) 対象：教員 1 名 内 容：ICT 教育に関する最先端技術の展示会および説明会
2	研修名：第 29 回日本心臓リハビリテーション学会学術大会 (連携企業等：日本心臓リハビリテーション学会) 期 間：令和 5 年 7 月 15 日 (土) ～16 日 (日) 対象：教員 1 名 内 容：「間違いにくい心リハの探求」
3	研修名：第 1 回中央研修会 (学校法人巨樹の会リハビリテーション部門主催) 期 間：令和 5 年 8 月 8 日 (火) 対象：教員 11 名 内 容：ICT 教育に関する研修
4	研修名：令和 5 年度教職員・ICT 支援員著作権講習会 (連携企業等：文化庁) 期 間：令和 5 年 8 月 18 日 (金) 対象：教員 1 名 内 容：「ニューノーマルにおけるリハビリテーション教育の探求」
5	研修名：第 2 回中央研修会 (学校法人巨樹の会主催 外部講師を招いての研修会) 期 間：令和 5 年 8 月 21 日 (月) 対象：教員 11 名 内 容：カリキュラム作成に関する研修
6	研修名：令和 5 年度現職教員・人権教育研修会 (連携企業等：山口県専修学校各種学校協会) 期 間：令和 5 年 8 月 23 日 (水) 対象：教員 2 名 内 容：LGBT に関する研修
7	研修名：管理者研修 (学校法人巨樹の会主催 外部講師を招いての研修会) 期 間：令和 5 年 9 月 8 日 (金) 対象：教員 3 名 内 容：保護者への対応に関する研修
8	研修名：第 21 回日本神経理学療法学会学術大会 (連携企業等：日本理学療法学会連合) 期 間：令和 5 年 9 月 9 日 (土) ～10 日 (日) 対象：教員 3 名 内 容：「臨床知への歩み ～学際性への架け橋～」

9	研修名：第9回日本ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法研究会学術大会 (連携企業等：日本理学療法学会連合) 期 間：令和5年11月25日(土)～26日(日) 対象：教員1名 内 容：「ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法の可能性を拓く」
10	研修名：第12回日本理学療法教育学会学術大会 (連携企業等：日本理学療法教育学会) 期 間：令和5年12月9日(土)～10日(日) 対象：教員2名 内 容：「学習科学に基づいた教育活動の実践」
11	研修名：第10回日本地域理学療法学会学術大会 (連携企業等：日本理学療法学会連合) 期 間：令和5年12月16日(土)～17日(日) 対象：教員1名 内 容：「変貌する地域社会と理学療法の新しい役割」
12	研修名：日本物理療法学会2024 (連携企業等：日本物理療法学会) 期 間：令和6年1月26日(金)～27日(土) 対象：教員1名 内 容：「多職種が集う物理療法フェスティバル」
13	研修名：第14回腎臓リハビリテーション学会学術大会 (連携企業等：日本腎臓リハビリテーション学会) 期 間：令和6年3月16日(土)～17日(日) 対象：教員1名 内 容：「患者中心の腎臓リハビリテーション」

### (3) 自己学習力の強化

#### ・看護学科

学生に対しては1年次より学習の仕方の説明を行い、適宜確認し指導している。授業についてもグループワークでの発表だけでなく、個人ワークの発表など個人の学びを発表する機会を作っている。それと終講試験や模擬試験の結果とリンクさせ、学生に学習継続の必要性を指導している。

教員に関しては、学習意欲の強い教員なので、先に記したように外部への発表の機会をこれからも作っていききたい。また今後は教員間で授業評価できるように授業参観の機会を作るなど検討していく。

#### ・理学療法学科

能動的な学びを促すために、各科目において課題を提示する、ICT技術を活用するなど工夫した。真剣に取り組む学生も多くみられたが、取り組みが不十分な学生も少なくはなく、そのような学生への能動的な学習を促すことが困難であった。

教員の意識改革、各講義での工夫、学習支援対策などで成功体験を積み上げていく体制やシステムを構築していきたい。

## 7) 定員充足の取り組み

### (1) インターネット、SNS等による情報発信の強化

高校生の特徴を踏まえ、Webでのバナー広告およびジオターゲティング広告を実施し、反応が良好であったため、今年度も継続した。また、Twitter、Instagramの更新頻度を高める工夫を実施

した。更には、TikTok を開設し、学生からの意見を参考にしながら運用した。しかしながら、オープンキャンパスの参加や受験者の増加には至っておらず、広報戦略については検討が必要である。

#### (2) 高校・大学訪問の強化、ガイダンスへの積極的参加

高校内ガイダンス 48 件、会場ガイダンス 16 件に出席し、657 名の高校生へ職業理解・学校説明・オープンキャンパス情報・入試情報などについて話をした。

高校訪問については、4 月・5 月・7 月・9 月・12 月に山口県内および北九州市内、広島県・島根県西部の約 120 校を訪問し、新入生および在校生の状況報告、オープンキャンパス情報や入試情報の報告、指定校推薦書の持参、入学前課題の持参などを実施した。

#### (3) 高専連携の強化（部活支援活動、キャリア教育協力）

今年度は部活動支援に該当する依頼はなく、活動は実施していない。

キャリア教育協力として、6 月に山口県立厚狭高等学校、11 月には下関国際高校からの依頼があり、本校にて職業理解に関する講義および体験会を実施した。高校ではないが、5 月には下関市立日新中学校、2 月には下関市立山の田中学校からの依頼があり、職場体験・職業理解の出張講義を実施した。

### 8) 地域連携の充実に向けた社会貢献の推進

#### (1) 地域ボランティア活動参加への促しと表彰

カリキュラムの一環として、地域の清掃活動を実施した。今年度は、長年の功績が認められ、下関市地域福祉推進会議（下関市社会福祉協議会）にて表彰を受けた。また、下関市からの依頼があり、海峡マラソンにも 63 名の学生がボランティアとして参加した。

新型コロナウイルスの影響により、ボランティア依頼については未だに少ない状況が続いており、緩和され次第、社会貢献等に関する表彰を実施していく。

#### (2) 各学年清掃活動の継続

今年度は、授業の一環で 1 年生全員による地域清掃活動を実施した。

### 9) 業務効率化の促進

#### (1) 業務効率改善に向けた職員の意識の改善

##### ・看護学科

各教員が役割の目的や内容など確認できたが、学年担当となると、その責任感で多くの業務を抱え込んでしまう傾向にある。できるだけ皆で分担できるように学科会議で現状の情報共有を図り、対策を検討している。調整力として力がついてきたが、時間内は学生指導優先で、自分の講義準備やまとめなど後回しになり、残業時間が増えていく傾向にある。業務の効率化を促進していくために、業務の見直しを行っていく。

##### ・理学療法学科

「働き方改革」という言葉が浸透してきており、時間内に業務が終わるように工夫するという意識は高まっている。しかしながら、国家試験受験が近づくにつれ、学生対応のため残業時間が増えており、改善困難な場面も見られる。今後も教員の意識改革、ICT 技術の活用、業務分担の見直しなどにより、業務の効率化を促進していく。

## (2) 学内業務の見直しと適切な業務分担

### ・看護学科

前述したように、学科会議内で状況報告し情報は皆で共有し、対策を考えている。

令和5年度の役割分担を決定する際、教員から前向きな意見が出て、役割を分担することが出来た。引き続き適切な業務分担が行えるよう調整していく。

### ・理学療法学科

今年度より、業務負担が同程度になるよう、また、職員の業務能力や長所を生かせるよう各委員会や係の担当者を変更した。しかしながら、職員によつての偏りが見られていることもあるため、適切な分担となるよう適宜調整していく。

## (3) 効率化に伴う設備の充実

### ・看護学科

iPad やプロジェクター、シナリオのレンタルなど、必要性を認められ、活用できている。使い方を工夫することで時間の管理もでき、意欲にもつながっている。

### ・理学療法学科

一部の古いパソコンを買い替え、書類作成やデータ集積などの業務効率は高まった。また、荒天による交通機関の運休などの緊急時においても、オンライン講義が実施できるよう教員のスキルも向上しており、充実している設備を利用できるようになった。その結果、学事が遅れることもなくなり、様々な業務に支障をきたすことが少なくなっている。

### ・事務

Google ドライブを活用し、スケジュールやチャット機能で情報の共有化がし易くなった。

～増員後の新しい生活様式に則する環境整備と職業実践教育の推進～

1) 入学定員増員に係る必要な教育器具・機材、備品の購入

・A棟は増築時に各教室へのAV機器をはじめとする設備備品の整備を行ったが、B棟に於いても各教室の黒板をホワイトボードに変更、講堂で合同授業に対応できるよう映像設備の工事、長机と椅子の追加購入を行った。

2) 環境の改善

・B棟の2階3階の男子トイレの小便器の流れが悪い状態が続いていた為、小便器を取り外し、高圧洗浄車を入れて配管洗浄工事を行い解消した。  
・学生用コピー機が1台リースアップになるタイミングで学生がiPadから直接プリントできるコピー機の導入を行った。  
・校納金（授業料）は原則1年分まとめて振込で納入してもらっていたが、次年度（R6年度）校納金から2期に分け、集金サービスを利用した口座引落しの納入に変更。  
年度末には次年度前半の授業料の納入があったが混乱無く導入でき、2分割での納入になることで学生の負担も軽減され、口座引落しにより学生の振込手数料負担も無くなった。

3) 学外学習機会の確保

・指定規則改訂により実習指導者条件に臨床実習指導者講習会の受講が必須となった為、今年度も講習会の受講機会を増やす協力をすべく講習会を学校独自で開催した。  
・学生数が増えることで新規実習施設の登録数を増やすべく継続して依頼、施設登録を行った。今後も継続する。  
・千葉県が行うボランティアに関する講義の受講機会を設け、八千代市のニューリバーロードレースでのボランティア活動など学生たちのボランティア活動の機会も継続して提供した。

4) ICTを活用した教育の推進

・令和5年度入学生へタブレットとタッチペンシルを贈呈、ICT教育に対応できる体制整備。  
・WEBサービス（エドパズル）の利用を開始、オンデマンドの授業も取り入れ、夜間コースへの休日開校の数を削減した。  
・緊急時に遠隔授業をスムーズに行えるよう各学科学年で遠隔授業を行った。  
・デジタルサイネージシステムを利用し、グループ病院でのアルバイト募集の情報なども発信した。

5) 効果的な広報活動の展開

・WEB出願の次年度（R6年度）導入に向けての準備を開始。WEB出願システムから学事システムへのデータや写真の取り込みができるよう学事システム改修の検討を行った。  
紙媒体の募集要項が無くなりエントリーシートや願書が手書きではなく入力での提出になるなど受験生にとってのメリットを今後も広報していく。

有終の美を飾る  
～学生の記憶に残る学校であり続ける～

1) 新規事業

なし

2) 継続事業

(1) 教育

- ・全員卒業、全員国家試験合格を目指す
- ・止むを得ず卒業できない学生、国家試験不合格となった学生の為のフォロー体制を整える。

報告：

臨床実習・国家試験を通して、全職員が一丸となって、学生教育に取り組み、早期から学習のフォロー、精神的フォローを行った。1名の退学者（進路変更）、1名の留年者（精神的不調での臨床実習単位未修得）が出たものの、その他の学生は全員卒業、国家試験受験ができた。理学療法学科 97/97名、作業療法学科 42/44名が国家試験に合格したことに加え、職員・学生がひとつになって教育に取り組めたことも含め”有終の美”が飾れたと感じている。

留年した学生、昨年度交通事故で留年した学生については、それぞれ、希望のグループ校へ転校手続きが終了している。

また、国家試験不合格者については、グループ校にて対応を行うこととしている。

(2) 閉校作業

- ・手続きの完遂
- ・施設、設備、教材の引継ぎ 等
- ・卒業生への事務対応（証明書発行 等）

報告：

\*閉校手続きについて

- ・「養成施設の指定取消申請」の書類を1月に福岡県医療指導課へ提出し、「指定取消書」を受領。
- ・「専修学校廃止認可申請書」については、令和6年5月末まで（4月～5月）に福岡県私学振興課へ提出予定。その後7月に開催される私立学校審議会に諮問し、9月頃に認可書が交付される。
- ・全国リハビリテーション学校協会の退会手続きを3月に行った。
- ・職業実践専門課程指定校取消し申請は令和6年9月提出予定。

\*施設、設備、教材の引継ぎ等

施設、設備、教材については、大学への移管手続きが完了。

iPad、パソコンの一部は小倉校、下関校、武雄校へ移管。

\* 卒業生への事務対応について

ホームページに閉校のお知らせと証明書発行の手続きについて掲載し、令和健康科学大学のホームページの手続きページに移行できるよう設定し対応。今後は、大学の教務係が窓口となる。

## 地域に貢献できる人材育成

### 1) 創造力・実践力の向上を目指した教育の推進

#### (1) シミュレーション教育の充実

##### 【看護学科】

シミュレーターを活用し、各学年、学びの進度に応じシミュレーション教育を取り入れた。1年生は基礎看護技術においてタスクトレーニングを実施。2年生・3年生は、臨地実習における実践活動外学習のなかで、臨床で遭遇する状況や状態を教材として、医療行為やケアを経験し、振り返り、ディスカッションを通して、充実した学びができた。

##### 【助産学科】

全国助産師教育協議会で作成された助産学実習学内実習ハイリスク事例集 2023、分娩期のシミュレーション教育のシナリオの活用方法の研修会参加など、各担当の講義や臨地実習でのシミュレーション教育に活かすことが出来た。実習前の各技術学の講義では実習で想定される場面を演習した。後期のシミュレーション教育は前期の実習を想起させながら実施し、後期の実習に活かす実践教育となった。また、腹部モデルを使用しての超音波診断のシミュレーションは助産院で、助産師による実践教育を実施した。臨地で実施したことにより、リアル感が増し超音波診断技術の習得に繋がった。

#### (2) 看護教員の教育実践力向上

##### 【看護学科】

中央研修として6月に「LTD 話し合い学習法」、9月に「看護教育現場での変革を成功させるためのプロセス」に8割の教員が参加。他、教員4名(26%)が専門分野の研修に参加しており、新たな知識の開拓と教育に携わる意欲の向上に繋がった。

##### 【助産学科】

5月の助産師学会に学生と共に全員参加し、講義内容へ活かすことが出来た。2名の教員がアドバンス助産師の新規申請し、本校のアドバンス助産師は3名となった。また、新生児蘇生法の更新研修を3名が受講した。学会や研修に積極的に参加し、助産に関する知識や技術をブラッシュアップすることで、自己の助産実践能力の専門性を高め、教育実践力が向上に繋がっている。

### 2) 学生満足度向上に向けた取り組み

#### (1) 学習環境の整備

Wi-Fi環境及び教室のモニター教材等は整備し不備なく活用できている。学習スペースとしては教室、情報処理室、学習室、講堂など使用用途に応じて学習環境を整えている。図書の教材も学生のニーズを考慮した本や雑誌の補充もできている。

#### (2) 教育教材の充実

##### 【看護学科】

学習に必要な教材は充実している。

#### 【助産学科】

胎盤モデルと会陰部のモデルは経年劣化により購入した。胎盤モデルについては、よりリアルなモデルとなっており、臍帯結紮が実際に近い状況で演習ができるようになった。

### (3) 学生との援助的関係の確立

#### 【看護学科】

各学年、年2回面談を実施。学生が相談しやすい環境を作り、守秘義務を守っていることを伝えた。

また、いつでも個別相談にのれる体制を作り、学生が心身のバランスをとり学業に専念できるよう支援している。学生カウンセリングを受けている学生に関しては、カウンセラーより支援方法の助言を頂きながら関わっている。

#### 【助産学科】

入学時に個人面談を実施し、チューター制を中心に学生支援を実施。就職や個別相談については、教員へ相談や履歴書確認・面接練習など支援している状況であったが、就職支援の満足度は低い。主体的な就職活動ができるようオリエンテーションをしていきたい。また、学生が安心して教員へ相談できる態勢を整えていく為にも、教員間の情報共有、一貫した指導、学生へのこまめな声掛けを継続し、学生との援助的関係がスムーズに確立できるようにする。

## 3) ICT環境の運用

### (1) 共同学習としての ICT 教育の推進

#### 【看護学科】

令和4年度の入学生より、電子教科書を導入。ICTを活用し、成果物をタブレット端末で共有、演習において学生同士で動画を撮影し、客観的に振り返り、技術習得を目指した。また、Google classroom を活用し、小テストや課題を提示。結果を即時にフィードバックすることで、学生とタイムリーに学習内容を共有することができた。

#### 【助産学科】

情報のモラルや ICT リテラシーについては、入学時ガイダンスや実習前の OR で行い、機会毎に教員が意識して関わった。助産過程方法論、助産自律・専門実習の実習記録を電子化しており、情報の取り扱い卒業前のデータ削除まで管理できた。

教材として視覚的に映像を取り入れ、また、インターネットでの調べ学習、授業内でのグループワークを取り入れ、分かりやすい授業で学習意欲を向上できるように努めた。急遽、外部講師がオンラインの講義となった際や特別講義の際にスムーズに対応できている。Google クラウドルームで、学生と双方向で連絡が取れるようにし、また、Google フォームでアンケートや出欠確認を取り入れた活用はできた。

マザークラスの受付を Google フォームで実施し、参加者へのアンケートを実施し、対象把握を効果的にすることができた。

### (2) ICT 教育力の向上

#### 【看護学科】

令和4年度より、教員一人に一台 ipad が支給され、少しずつではあるが、ICT を駆使した教育活動が行えている。

#### 【助産学科】

ICT 教育力の向上については具体的に取り組むことができていない。

#### 4) 進級率・卒業率向上への取り組み

##### (1) 職業的アイデンティティの確立

###### 【看護学科】

入学時より、看護師になるという目的意識を持つために、ガイダンスで「なりたい看護師像」を言語化し、1年次の目標を設定した。各学年、授業・実習を通して職業的アイデンティティを高めていくことができた。

###### 【助産学科】

授業科目・実習を通して、助産師としての役割や責務について学び、助産師として専門性を高める取り組みはできた。

卒業前の特別講義は、卒業後も自ら学問を探究する姿勢を持ち、専門職業人として課題に取り組む必要性を考える機会となり、職業的アイデンティティの確立に繋がっている。

##### (2) 学生個々に応じた学習支援

###### 【看護学科】

学生個々の状況に応じ、個別指導、チューター制を実施。学力向上を目指すことができた。

###### 【助産学科】

入学後に、学校生活も含め、学習支援を3回行った。情報は、教員間で共有し、支援できるようにした。

入学後より多重課題となり、不安を訴える学生も多いが、学校生活の中で意識的に教員が声をかけフォローした。国家試験対策では、チューター制を行い、自律性を促しながら、学習状況に合わせ個別に学習支援をすることができた。

##### (3) 保護者との連携

###### 【看護学科】

各学年、年2回保護者会を実施。必要時に応じ、保護者への連絡や面談を行い情報共有を図った。(1)(2)(3)の取り組みを通して、進級率・卒業率向上への取り組みができた。

###### 【助産学科】

保護者との連携は、学生を介して行うことが多く、体調不良やメンタル面等問題がある学生については、早期に保護者と連絡を取り支援していく体制を整えており、保護者との連携は取れていた。

#### 5) 国家試験合格率100%に向けた取り組み

##### (1) 1年次からの積み上げとなるカリキュラムの構築

##### (2) 修学指導への取り組みの強化

###### 【看護学科】

カリキュラムの構築については、基礎科目・専門基礎科目・専門科目との関連を重視し進めていけるよう努力した。1年生は、入学時より国家試験について説明。模擬試験終了後には、振り返り学習の方法、解説書の見方、周辺学習の方法を伝え、主体的に学習できるよう支援した。2年生は、過密カリキュラムのため、一つひとつの単位を確実に修得していくこと、年2回の模擬試験を実施し、知識の定着度や苦手分野の確認を行い、学習強化を図った。3年生は、看護師国家試験の全員合格を目指し、学習支援として、3回の集中セミナー(春・夏・冬)、特別講義、さわの解説講義、模擬試験12回、全領域の実力テスト、個別指導を行った。国家試験の結果は、73名中70名の学生が合格し、合格率は95.8%であった。取り組みは行ったが結果は合

格率 100%に達することができなかった。

#### 【助産学科】

年度末にカリキュラム評価を実施し、国家試験の傾向もふまえて、次年度のカリキュラム内容を教員全員で共有し、シラバスの具体的内容を検討することが出来た。その為、他の科目との関連や既習学習内容を想起させながら講義を進めることができた。

4月入学時より、年間を通して国家試験対策を計画し、実施した。実習の進度によって12月末頃まで実習と並行して国家試験対策となる学生が数名おり、学習に焦りが出るため、精神面の支援をしながら国試対策と実習を並行していくことができた。学生アンケートより、チューターにより関わりの差があるとの意見もあり、学生への関わり方を確認しながら、細やかな声掛けをして心理的支援を充実させていく。第107回助産師国家試験に全員合格できた。よって、国家試験合格率100%に向けた取り組みはできた。

### 6) 定員充足への取り組み

#### (1) 広報委員会を活性化し、教職員全員で年間を通じた広報活動の強化

##### 【看護学科】

学生募集活動として、教員一丸となり、対面型オープンキャンパスを7回、オンライン学校説明会を2回実施した。高校訪問は6月に85校（指定校69校、新入生の卒業校16校）、9月に福岡方面を中心に13校実施。8校に進路説明会を実施した。今年度は、instagramやTikTokに力を入れ、少しずつフォロワー数が増え、反応（いいね数）は1.7万回あった。しかし、受験者数は一昨年度より増えたが、令和6年度定員を充足することができなかった。今後も予測される看護大学への進学や18歳人口の減少を考慮し、学生募集活動の工夫・強化を行い、本校の特徴を出し、選ばれる学校を目指していきたい。

##### 【助産学科】

九州中心のパンフレット・募集要項の郵送、入学者の卒業校への電話訪問の実施、オンラインでの在校生との座談会を実施。また、看護と合同の学校見学会を実施し、当日の助産学科学生による分娩介助技術練習の見学はかなり好評であった。座談会の参加者は昨年より減少ではあったが、オンラインでの座談会の満足度は高かった。助産師を目指す受験生は多く、定員の充足はできた。

### 7) 地域連携の充実にに向けた社会貢献の推進

#### (1) 地域清掃の継続

#### (2) 地域主催のイベント参加への推進

#### (3) 地域のイベント及びボランティア活動への参加

##### 【看護学科】

10月、水巻町社会福祉協議会より「協働募金にかかる募金活動」の参加依頼があり、1年生4名の学生が参加。2月、北九州市国際スポーツ大会推進室より「北九州マラソン2024」のボランティア活動の依頼に、1年生3名、2年生5名が参加。他、地域清掃や献血に参加した。ボランティア活動や地域主催の活動を通して、自らの行動が社会貢献となり、普段と違った経験ができ自己成長につながっている。地域連携の充実にに向けた取り組みはできた。

#### 【助産学科】

実習施設であるみずまき助産院の大掃除を2回/年実施。オープンキャンパスの参加など多重課題の中で、積極的に貢献している。

### 8) 業務効率化の促進

#### (1) 職場環境の改善

物理的環境は問題ない。パソコンや機器などは使いやすいが作業スペースが不足している。学科会議等で情報共有しコミュニケーションをとるようにしているが、実習があることで教員が一同に集まる機会が少ない。報告・連絡・相談が滞ることもあるが、ICTを活用した情報共有の工夫を図っている。科の垣根を超えたコミュニケーションが不足しており、お互いに余裕が無い様子である。コミュニケーションによって、新しいアイデアやイノベーションが生まれることもあるので、ストレスの要因とならない程度で職場環境を整えていく。

#### (2) 業務内容に応じた勤務形態の多様化

##### 【看護学科】

業務内容に応じた勤務形態を実施できた。

##### 【助産学科】

学習支援のため、時間外での対応が必要な時は、時間差勤務や勤務形態を工夫して時間外勤務とならないように工夫した。しかし、実習中は分娩期の実習での時間外勤務が30時間を超えることが続き、ワークライフバランスが図れない状況が発生する。しかし今年度は、有給休暇の取得率を増やすことはできた。

勤務形態の違いや、業務内容・量の偏り、教員会議を定期的の実施するも、教員間でのアサーティブなコミュニケーションがとれておらず、職場環境の調整が必要であった。業務効率化やより良い職場環境の改善ができるよう、意識的に改善していきたい。

### 9) 就職支援、キャリア支援

#### (1) 就職先選択の考え方や将来ビジョンを考えるための体制作り

##### 【看護学科】

1年生は、授業「キャリアデザイン」で専門看護師や保健師・助産師のキャリア開発に触れ、自らの将来について考える機会を得た。2年生は、3月に関連病院の就職説明会や、マイナビによる面接対策講座を受け、就職活動を開始した。3年生は、関連病院に45人就職(60.8%)、助産学科に4人進学(5.4%)。就職支援、キャリア支援はできた。

##### 【助産学科】

就職活動オリエンテーションを実施し、4月中旬以降で面接し、就職先の具体化を図っている。自分の目指す助産師像を具体化させ、病院見学・面接の計画を立てていく。卒業生の就職先・試験内容の記載されたファイルや、実習施設からの募集、郵送された募集要項の提示、先輩からの情報収集と情報提供を実施。関連施設への就職状況は、東京品川病院へ1名、実習施設へ4名就職した。よって、就職支援、キャリア支援はできた。

## 10) 学校設備・建物の整備

### (1) 老朽化した施設の整備

状況に応じて計画的に実施しているが、水道管からの水漏れなど想定外の工事に時間と費用を費やした。今後も外壁、内装のひび割れ、雨水の侵入など建物の劣化による不具合が生じている個所は計画的にメンテナンスを行っていく。学習環境に影響するものからその都度優先順位を検討していきたい。

#### 【看護学科】

各教室、在宅室、図書室、学習室、情報処理室のパーチカルブラインドをカーテンに変更した。カーテンの効果として、直射日光が遮られ、遮熱・断熱性の効果が高まり、快適な室温と明るさで学習ができるようになった。

#### 【助産学科】

予定外の施設整備も多く、定期的な設備点検・整備を継続していき、学生が、安全で快適な環境で学習できるようにしていく。

## 武雄看護リハビリテーション学校

全校一丸となりブランド化を図り、魅力ある信頼される学校創りに邁進する  
～全てにパーフェクトを目指して、活力と活気ある学校に～

### 1) 医療人としての人間力育成

学校長による講話や日々の活動で学生に医療人としての心構えを指導しており意識付けが出来てきている。来校者に対しての挨拶や立ち振る舞いなども礼儀正しい態度を取ることが出来ている。

退学者も少なく、皆勤賞受賞者数も多かった。学校行事等（卒業式・入学式・始業式・終業式）において学生が司会進行をするなど学生の自主性を育成している。

先輩が後輩に勉強を教えるなど先輩後輩の絆も強く、また国家試験前には多くの卒業生が後輩の激励に来校してくれた。

皆勤賞受賞者数

理学療法学科) 1年 10名 2年 14名 3年生 7名 3ヶ年皆勤賞 3名 精勤賞 8名  
看護学科) 1年 20名 2年 16名 3年生 8名 3ヶ年皆勤賞 5名 精勤賞 7名

### 2) 進路保障 100%達成

進路：11年連続100%を達成することが出来た。学校長には、就職試験に向けての履歴書や面接指導、小論文指導まで学生へ個別指導をしていただき、3年担任だけでなく教職員全体で一人ひとりに合わせた支援を実施した。

関連病院への内定人数：理学療法学科 30/42 71%  
看護学科 29/35 82.9% ※不合格者を除いた分母

### 3) 国家試験全員合格を目指して

1年次からの指導の積み重ねと全職員が一丸となり、各学生の成績分析を随時行い、臨機応変に学習指導計画を立て指導した。理学療法学科は3年連続100%の合格率であったが看護学科が4名の不合格者が出た。卒業生や新武雄病院、ご家族など多くの方々からのご支援を頂き学生たちの意欲向上に繋がったが看護学科は残念な結果であった。

国家試験合格率：理学療法学科 (42/42) 100%、看護学科 (35/39) 89.7%

### 4) 退学・休学をなくす

今年度退学者は若干名出たが、定着率は向上してきた。

理学療法学科 1年生 1名 (進路変更)、2年生 1名 (進路変更)、3年生 0名

看護学科 1年生 2名 (進路変更)、2年生 0名、3年生 1名 (進路変更)

担任を中心としたこまめな学生支援を行い、随時スクールカウンセラーや関係機関、保護者との連携を図った。

保護者へメール配信できるシステムを構築し必要に応じて連絡を行った。

また理学療法学科では3月に対面での保護者会を開催し直接コミュニケーションを図ることも再開

出来た。

学生との個別面談を随時に実施し、密な対応をしてきた。

## 5) 教職員の資質向上

毎日の朝礼時や会議において、学校長より学生指導に必要な事項や業務の在り方について講話していただいた。そのため学生目線に立った教育、教員としての責務について共通理解ができている。今後はさらに優先順位を踏まえスピード感のある対応を身に付けていく必要がある。

職員の研修は、県の補助金 600,000 円を活用しながら積極的に参加し自己研鑽に努めている。

## 6) 魅力ある指導実践

ICT 環境を有効活用した講義や学習指導を実施した。

教育の充実のため、国と県の補助金を活用し情報処理室のパソコンを新しく購入した。

研究設備整備費等補助金 (国の補助) 2,515,000 円

設備整備費補助金 (情報処理関係設備) (県の補助) 861,000 円

看護学科と理学療法学科という 2 科が存在する本校の特徴を生かし、両科合同授業や理学療法学科教員による看護学生への講義などを実施し、職種間連携を図ることが出来てきている。

## 7) 高校との信頼構築で定数確保

学校説明会やオープンキャンパス、高校訪問を対面で実施し本校の強みや資格取得について伝えることが出来た。また、「佐賀県専修学校部会」にも参加し高校生等の情報収集に努めた。各高校へパンフレット、募集要項に加え、今年度も在校生や卒業生からのメッセージや近況を報告するなど、本校の雰囲気や良さがより伝わるような工夫を行った。高校教諭の方々の来校も多く、可能な限り学内見学や学生の生活状況を直接見て頂いた。

日々の生活状況はホームページや SNS を通じて情報を頻回に正確に配信している。

看護学科は、入学金納入後の辞退者が 5 名でて、定員確保のために 3 月末まで特別選抜入学試験を実施し 36 名の入学生の確保に至った。理学療法学科は 41 名の入学生の確保ができた。

志願者数 理学療法学科 45 名 (前年 39 名) 入学者 41 名

看護学科 48 名 (前年 67 名) 入学者 36 名

## 8) 地域・行政と連携したボランティア活動

学生たちが自主的に清掃活動を実施するなど、積極的に地域ボランティア活動を行った。また、今年度は感染対策の緩和に伴い、少しずつ地域でのボランティアが再開され、多くの学生が積極的に参加した。

看護学科では、社会福祉協議会と連携しボランティア活動の実施や地域の病院の活動に参加するなど地域に開かれた学校づくりを行った。

また新武雄病院での献血にも多くの学生 (106 名) が協力することが出来た。

## 9) 教育費等の削減と業務の効率化

看護学科、理学療法学科ともに近隣の実習施設との連携を図り、実習施設の増加に繋がった。

消耗品について、令和 5 年度佐賀県私立学校運営費補助金「特定経費枠」にて、約 200,000 円程度の補助金で消耗品の一部である新型コロナウイルス感染防止対策のため手指消毒・アルコールタ

オル・ペーパータオルなどの購入に充てた。

公費の削減については、教職員の意識改革が必要であり、管理者の徹底した指導の在り方も考えなければならない。

また、コピー機のカウント料について

令和4年度 1年間カウント料 約3,067,624円

令和5年度 1年間カウント料 約3,370,432円

前年度より 302,808円増

今後は、会議や情報をドライブで共有化するなどICT化を進め、カウント料が増加しておりペーパーレス化を進めていく。

令和5年度電気料金（学校分）について

【参考】令和3年度電気使用量 238,960Kwh 電気料 4,632,762円

令和4年度電気使用量 220,971Kwh 電気料 5,071,591円

令和5年度電気使用量 193,565Kwh 電気料 4,327,280円

過去3年分を比較して令和5年度は前年度に比べ15%の減になっている。昨年度末に学校法人本部にて電力会社の見直しを行い香川電力に変更となり、電力単価が安くなっている。また、前年度よりも使用料も減少し、節電の意識づけが徹底してきた。

今後もさらに電気・空調の適正な使用を徹底していく。

## 10) 学校環境整備

学生寮の備品買い替えなど学生の生活状況を把握しながら随時実施した。

学校駐車場に関しても学生が駐車区域を把握しやすいように整備した。

(女子寮)

令和4年度 レモンガラス13部屋 第2寮(なないろ)12部屋 25部屋 50名入寮

・家賃負担 444,000円 プラス

水道光熱費 3,924,299円

合計 3,480,299円 令和4年度学校負担分

令和5年度 レモンガラス11部屋 第2寮(なないろ)12部屋 23部屋 47名入寮

・家賃負担 504,000円 プラス

水道光熱費 2,883,155円 前年度比26%減

合計 2,379,155円 令和5年度学校負担分 前年度比32%減

令和5年度は寮生の人数が3名減り、2部屋分の光熱費が減となっている。

また、各部屋の光熱費も学生の節電により前年度よりも減となっている。今後も光熱費高騰を踏まえ、学生へ節電の意識づけを徹底していく必要がある。

年々、女子寮に入寮希望の学生が減少してきている。

今後、1人部屋での入寮や寮費の値上げを検討していかなければならない状況である。

(男子寮)

道の家 13名入寮

他学年・他学科で交流を持ちながら寮生活をしている。また男子寮の管理は学校でないため、寮生と本校職員が面談を行いながら「道の家」の寮担当との連携を図った。

男子寮についてもWi-Fi環境が前年よりも改善されてきた。しかし、まだまだ問題点もあり、今後「道の家」と改善方法を検討していく。

また、今年度は県から物価高騰に伴う寮食材費等支援事業として386,000円の補助があり、男子寮生の寮食の支援に充てることができた。

#### 1.1) 開校15周年に向けての準備作業

次年度の開校15周年に向けての実施要項等の作成に取り掛かる予定である。